すぐ使える

# 今日の健康おそうじ

**ダスキン長吉支店**

大阪市平野区長吉長原西 2-7-3

Tel 06-6797-1422　Fax 06-6797-1444

# もくじ


おそうじとは・・・・・・・・・・ 1
おそうじ基本 5 手順・・・・・・ 2
住まいの汚れ・・・・・・・・・・ 3
家全体の汚れ・・・・・・・・・・ 6
おそうじ対象のの材質を知ろう・ 8
素材のタイプを確かめよう・・・ 10
洗剤の酒類と特長・・・・・・・ 11
液性の違いと特性・・・・・・・ 12
用途と特長・・・・・・・・・・ 13
仮定用品品質表示法について・・ 14
まぜるな危険について・・・・・ 16
こんな小道具を使うと便利・・・ 16
【キッチン】
レンジフード・・・・・・・・・ 18
ガスレンジ・・・・・・・・・・ 21
ＩＨクッキングヒーター・・・・ 25
シンク・・・・・・・・・・・・ 27
排水口・・・・・・・・・・・・ 30
流し台下部・・・・・・・・・・ 32
食器棚 ( 合板など )・・・・・・ 34
冷蔵庫・・・・・・・・・・・・ 36
ビニールクロス・・・・・・・・ 38
タイル・・・・・・・・・・・・ 40
【浴室・洗面所】
プラスチック・ポリ・・・・・・ 43
ステンレス・・・・・・・・・・ 45
タイル・・・・・・・・・・・・ 47
洗面ボウル・・・・・・・・・・ 49
カラン ( 蛇口 ) ・・・・・・・・ 50
キャビネット・・・・・・・・・ 51
照明器具・・・・・・・・・・・ 53
洗濯機・内側・・・・・・・・・ 54
洗濯機・外側・・・・・・・・・ 55
【トイレ】
内側・・・・・・・・・・・・・ 57
外側・便座・フタ・・・・・・・ 59
水洗タンク・・・・・・・・・・ 61
クッションフロアー・・・・・・ 62
【リビング】
照明器具・・・・・・・・・・・ 65
収納家具・水を吸わない素材・・ 67
収納家具・水を吸う素材・・・・ 69
ソファーイス・・・・・・・・・ 70
壁・水を吸う素材・・・・・・・ 72
壁・水を吸わない素材・・・・・ 72
壁・シミの取り方・・・・・・・ 74
水を吸う素材・・・・・・・・・ 77
水を吸わない素材・・・・・・・ 77
シールの取り方・・・・・・・・ 78
落書きの取り方・・・・・・・・ 80
【窓】
透明ガラス・・・・・・・・・・ 81
すりガラス・型板ガラス・・・・ 82
白木・素木・・・・・・・・・・ 84
アルミサッシ・・・・・・・・・ 86
網戸・・・・・・・・・・・・・ 88
ブラインド・・・・・・・・・・ 90
すだれ・・・・・・・・・・・・ 92
雨戸・・・・・・・・・・・・・ 93
【床】
フローリング・・・・・・・・・ 95
化学素材 ( クッションフロアー )・ 96
ガムの取り方・・・・・・・・・ 98
化学床材 ( クッションフロアー )・ 99

すぐ使える

# 今日の健康おそうじ

## 1.おそうじとは

### おそうじ基本4原則

### ① 自分でできる範囲でおそうじ計画を立てる

一度にあれもこれもやろうと欲ばりすぎると、
途中でイヤになってしまうもの。
夜になってもまだ終わらない、なんて無理な計画は立てないこと。
まず、おそうじを毎日する場所、週１回でいい場所、
月１回念入りにする場所に分けましょう。
そして、毎日のおそうじは少しの時間でもいいから、必ず実行。
自分の生活の中に習慣づけていくことが、長続きするコツです。
モップがけなどは、動線を考えてから始めれば、効率もアップ。

### ② 汚れはため込まないで、軽いうちに落とす

たとえば、ガスレンジのふきこぼれ。放っておくと、こびりついて
落ちにくくなり、後始末が大変。家の中のホコリだって油断は禁物。
時間がたつと、頑固な汚れやシミになってしまうからです。
汚れがついたら軽いうちに、手早くこまめに取り除く。
これを心がければ、おそうじは簡単にすみます。
もうひとつ大事なことは、落としたい汚れの種類と状態を知ること。
どんな汚れかによって、
どの洗剤や道具を使えばいいのかがわかります。

### ③ おそうじ部分の材質チェックをお忘れなく

床ひとつとっても、フローリング、白木、クッションフロア
など材質はいろいろ。汚れたからといって、洗剤をつけて
ゴシゴシ拭けば OK、というわけではありません。
もし、その材質に合わない洗剤を使ったり、間違ったやり方
をすれば、せっかくの努力も台なしに。
汚れが落とせないどころか、材質を傷つけたり、変色や脱色を起こすことも…。
そんな失敗をしないためにも、材質のチェックはとっても大切なポイントなのです。

## ④ 洗剤や用具の特徴を知って、上手に使いこなす

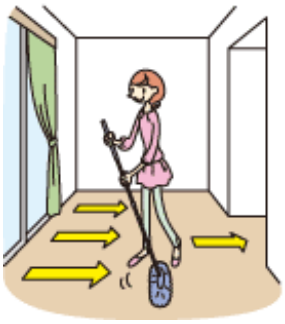
ラクにキレイにするために欠かせないのが、洗剤や用具類。
汚れと材質に合わせて、効果的に使うためには、特性や
正しい取り扱い方を知ることが一番。
どの洗剤をどの用具で、どれくらいの時間使用すればいいのか。
なんてことも、基礎知識があれば判断できます。
迷った場合は、影響の少ない洗剤・用具から始めて、汚れの
落ち具合と材質への影響を見ながら、
徐々に強力なものを試していきましょう。

# おそうじ基本5手順

## ① おそうじの基本は「上から下へ」

ホコリは上から下へ落ちてきます。
だから、おそうじも高いところからスタートして、
低いところで終わること。
もし、床にモップをかけた後で、家具などのホコリやゴミを
はらえば、それが下に落ちて、またまた床そうじをするハメに…。
こんなムダをなくすためにも、「上から下へ」の手順を覚えておきましょう。

## ② 「奥から手前へ」で効率よく



おそうじの二度手間を省くために、
もうひとつ大事な手順は、「奥から手前へ」。
おそうじした所を踏まないためにも、出口から遠い奥から
おそうじをして出口付近で終わります。
特にワックスがけなどを行うときは、このルールを必ず守って。
うっかり手前から先にしてしまうと、
ワックスが乾くまで歩けなくなってしまいます。

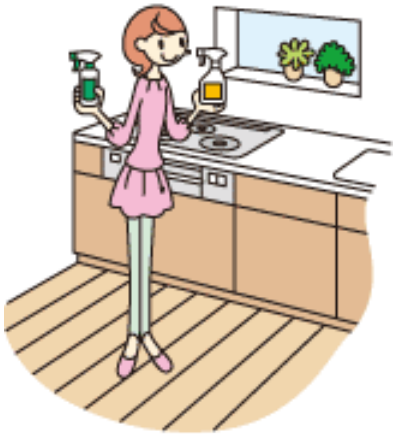
## ③ 洗剤は「まずスポンジにつけてから」

汚れは早く落としたいもの。
でも、洗剤を汚れに直接かけないで。
その前に、スポンジやぞうきんに含ませて、大丈夫かどうか、
ちょっと様子を見ながら拭いてみましょう。
洗剤によっては、材質を傷めるものもあるからです。
洗剤の使用は、まずスポンジやぞうきんにつけ、
試してから行うことが大切です。

## ④ 洗剤も拭き取りも「下から上へ」

材質を傷めず、使っても大丈夫。それが確認できれば、
汚れた部分に洗剤をつけます。このとき、洗剤は
「下から上へ」塗り、拭き取りも同じように「下から上へ」。
上から下へ行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、
くれぐれも逆にやらないように注意して。

## ⑤ 作業は「軽い汚れからひどい汚れへ」



材質への影響を的確に判断することは、
おそうじのプロじゃない限り、難しい。
そこでまず、マイルドな洗剤で軽い汚れを落とす。
それでも落ちないひどい汚れは、
もう少し強い洗剤を使ってみる。こ
ういうステップで、材質に影響がないかをチェック
しながら、作業を進めると、大きな失敗が防げます。

# 2.住まいの汚れ

### 汚れの状態別分類とその落とし方

## ① ホコリはどこから出てくるの？

ハウスダストといわれる室内に存在する小さいホコリは、屋外から入り込んだり室内で発生したチリなどが集まってできています。
人が動くたびに、空気がかき回されて舞い上がり、ゆっくりと下に落ちてきます。部屋のすみや家具の裏側にホコリがたまりやすいのは、空気が動かない場所だからです。
ホコリの代表的なものは、服やふとんなどから出る綿ボコリ、食べ物のカス、抜け毛やフケ、外から入ってくる砂ボコリなど。
そのほか、花粉、ダニ、カビの胞子、タバコの煙や排気ガスなど、目に見えないものもあります。ホコリに含まれている物質がアレルギー症状の原因となることもあるので、たかがホコリと思わないで。

## ② 汚れはホコリのうちに取ってしまおう

床のホコリは目につくのでおそうじするけれど、棚や壁はついつい後まわしに…。
そんな人も多いのでは？ところが、棚の上のホコリがある日、ただのホコリではなくなってしまうことがあるのです。
ホコリは最初、「軽くのっている」状態なので、はたけば簡単に落ちます。
でも、少し時間がたってホコリに水分や油分がつくと、「こびりついた」状態になり、ホコリがやっかいな汚れに変身。もうはたいたり、吸い取ったりしても、きれいに落ちなくなって、水拭きや洗剤拭きが必要になります。そのうえ、長く放っておけば、材質の表面に染み込んでシミになる恐れも。だから、簡単に取れるホコリのうちにおそうじすることが大切です。

## ③ 汚れの種類によって、おそうじ方法が変わる

どんな場所にどんな汚れがついているのか、汚れの正体は何なのか、どの程度の汚れなのか。まず、それを知ることが、ラクにおそうじするコツです。
ただし、どんな汚れでも、ついてすぐなら落とすのは簡単。洗剤に頼らなくても、大丈夫です。
だから、水拭きだけで OK という汚れに、いきなり強力洗剤を使う必要はありません。

## 汚れの種類と落とし方

### 浮遊しているホコリ

空気中に浮いているホコリ。
目に見えない10マイクロメートル
（1マイクロメートル=1000分の1ミリ）
以下の大きさがほとんどで、
0.5マイクロメートルより小さいものは、
半永久的に浮遊している。

空気清浄機で
吸引・清浄する。

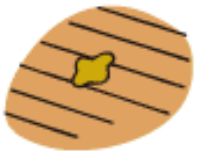
### 軽くのっているホコリ

床や家具の上に軽くのっかったり、
くっついている状態のもの。
綿ボコリや砂ボコリ、食品カス、糸クズ、
髪の毛など。

はたいたり、モップがけ、
掃除機がけで取る。
ぞうきんで乾拭き、
水拭きも。

### 表面に付着した汚れ

材質の表面にこびりついたり、
べたついて固まっている汚れ。
手アカ、油汚れ、泥汚れ、
タバコのヤニなど。



水や洗剤で拭いたり、
ヘラなどでかき取る。

### 染み込んだひどい汚れ

材質の表面に付着した汚れが、時間の
経過とともの空気や熱などの影響を受
けて変化したもの。材質に染み込んだり、
吸着しているため、落としにくい。
こげつき汚れ、樹脂化した油汚れ、尿石
汚れ、石けんカス、水アカ、カビ、サビなど。

強力洗剤や、
漂白剤を使う。
クレンザーで
こすり落とす。

## 2.住まいの汚れ

### 家全体の特殊汚れ

## 落ちにくい汚れの正体は・・・

### 樹脂化した油汚れ

換気扇などに付着した油が長時間、光や熱の影響で空気酸化して、樹脂のようになったもの。油がついてから３～６ヵ月過ぎると、一般の洗剤では落ちにくくなります。

### こげつき

ガスレンジの周囲にふきこぼれた煮汁や油が、熱によってこびりつき、炭化したもの。
そのままにして加熱を繰り返すと、いっそう落とすのが大変に。
鍋のこげつきも同じです。

### 石けんカス

石けんの成分である脂肪酸ナトリウムと、水に含まれるカルシウムイオンとが反応してできる、脂肪酸カルシウムが主体。放置してこびりついてしまうと、なかなか取れません。

### 水アカ

カビの発生には、酸素と適度な温度・湿度、栄養源が必要。
浴室は高温多湿で、栄養源になる湯アカがあるため、特に繁殖しやすい場所です。

### カビ

カビの発生には、酸素と適度な温度・湿度、栄養源が必要。浴室は高温多湿で、栄養源になる湯アカがあるため、特に繁殖しやすい場所です。

## サビ

金属の材質には、湿気や腐食性ガスによってサビが発生します。
水栓金具や給水管などのメッキ製品でも、サビができることがあるので要注意。

## 尿石

人の排泄物が微生物によって分解されてできる成分と、水に含まれる成分が結びついて、ガンコな汚れとなって便器にこびりつきます。
これは簡単には取れない汚れです

### どんな汚れがあるの？家の中をチェックしてみよう

キッチン

・ホコリ・食品カス・水アカ・油汚れ・こげつき

浴室・洗面所

・ホコリ・髪の毛・水アカ・石けんカス・カビ
・化粧品などのはね汚れ

トイレ

・ホコリ・水アカ・尿石汚れ・鉄サビ

リビング

・ホコリ・綿ボコリ・食品カス・髪の毛・フケ泥
・砂汚れ・手アカ・皮脂汚れ・タバコのヤニ

窓

・ホコリ泥・砂汚れ・手アカ・タバコのヤニ

床

・ホコリ・綿ボコリ・泥・砂汚れ・皮脂汚れ

玄関

・ホコリ泥・砂汚れ

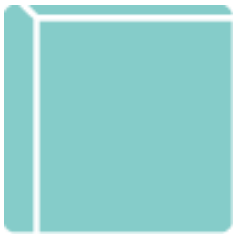
## 3.対象面の材質

おそうじ対象の材質を知ろう

### 場所別の主な材質とお手入れの仕方

汚れは落とせたのに、床にキズがついたり、
壁が変色してしまったり…。
これではおそうじの意味がありませんね。
材質を傷めないで、キレイにするためにはどうすればいいのか。
おそうじ対象の材質の特徴を知ることで、適した方法がわかります。

## 壁



### ビニールクロス

壁の材質で一番多いのがビニールクロス。
水や洗剤が使えるので、おそうじも比較的ラクです。

**お手入れ**

ホコリは、柄の長いモップや掃除機を使うと便利。
汚れが軽いうちは水拭きし、取れないものは洗剤拭きで。



### 自然素材

布や紙を貼った壁には、水拭きはタブー。水や洗剤を使うと、汚れが輪ジミになって残ったり、プリントがはがれたりします。

**お手入れ**

帯電式のハタキや掃除機でこまめにホコリを取りましょう。

# 床

## フローリング（合板）

表面加工がされていないものの代表として、白木があります。
特に日光やアルカリによって黄色く変色しやすいので、洗剤を使用する場合は、変色をさけるために中性タイプのものを使って。

### お手入れ

普段のおそうじは、化学モップなどの乾いたもので拭くのがベター。
それで取れない汚れは、1～2週間に1回、水に浸し固く絞ったぞうきんで水拭きを。

## フローリング（白木）

表面加工がされていないものの代表として、白木があります。
特に日光やアルカリによって黄色く変色しやすいので、洗剤を使用する場合は、変色をさけるために中性タイプのものを使って。

### お手入れ

白木用ワックスがかかっていれば、普段のおそうじは合板と同様にします。
ワックスがかかっていなければ、化学モップは使用しないように。

## カーペット・ラグ

カーペットのパイル素材には、ウール、ナイロン、レーヨン、アクリル、ポリプロピレン、ポリエステルなどがあります。
カーペットについている品質表示を確かめて、素材が合繊系か天然系かを見分けることが、お手入れのポイント。
合繊系のものは比較的お手入れが簡単だけど、天然系のウールや絹のものは要注意。できれば専門のクリーニングへ。

### お手入れ

ホコリやゴミがパイルの中にもぐり込んでしまうので、見た目よりも汚れている場合が多い。こまめな掃除機がけで、ダニのエサとなる食品カスやホコリをためないように。

## 畳

畳の材料の「い草」は、表面に気孔がたくさんあって水を吸い込みやすく汚れやすいため、白土という土をつけて乾燥させています。
水拭きすると、そのコーティング材である白土が取れてしまうので、なるべく避けて。
日光やアルカリ性洗剤も苦手。黄色く変色する原因になります。

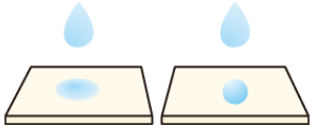
### お手入れ

掃除機でホコリやゴミを取り除きます。どうしても汚れが気になるときは、水に浸し固く絞ったぞうきんで拭きそうじを。

## 3.対象面の材質

### 素材のタイプを確かめよう

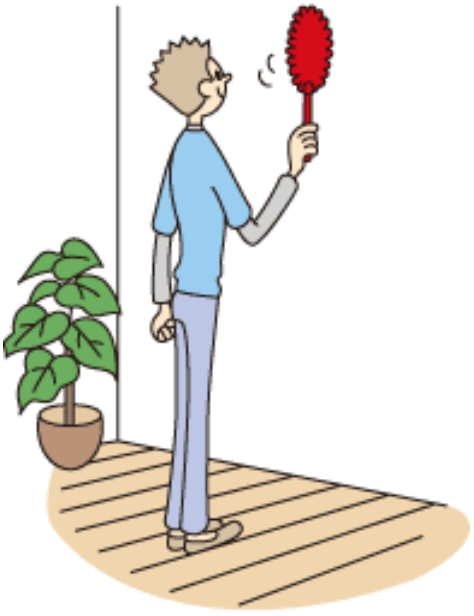
天井、壁、床、そして各種の家具など、住まいには、さまざまな素材が使われています。
あらかじめその素材がどんなタイプか、おそうじを始める前に確かめておきましょう。
知らないままおそうじをして、かえって汚れを広げる結果になることもあります。



おそうじしようとする面に、水滴を落とします。すっと吸い込めば、水を吸う素材です。
壁などで、水滴が落とせない場合には、スポイトやスプレーを使って確かめます。
※プリント合板などのように、一見木のように見えても紙の場合があるので、慎重に見きわめる必要があります。

### ② 水を吸い込む素材のおそうじの基本

水を吸い込む素材の主なものは、紙、布、木材（素木）、しっくい、皮、土壁などです。
水や洗剤を使うことは、シミの原因になりますので、原則として避けてください。



### ③ 水を吸い込まない素材のおそうじの基本

塩化ビニル、化粧合板、プラスチック、ガラス、金属などは、水を吸い込まない素材で、水や洗剤を使うことができます。ただし、洗剤によっては、変色するものもあります。
あらかじめ、目立たない箇所に洗剤を少しつけ、変色や色落ちしないことを確かめてからおそうじすると安心です。

## 4.洗剤と洗浄剤

### 洗剤の種類と特徴

## 洗剤の種類と特徴を覚えておこう

洗剤の種類には、普段よく使う合成洗剤のほかに、洗浄剤、漂白剤、研磨剤などがあります。

### 合成洗剤

主成分は界面活性剤で、汚れの種類に合わせて、液性が酸性・弱酸性・中性・弱アルカリ性・アルカリ性の 5 段階に分かれています。

それぞれに適した汚れには、酸やアルカリが強いほど汚れは落ちやすくなるけれど、反面、手肌や材質には強い影響を与えます。合成洗剤を選ぶときは、ラベルに書いてある液性や用途、使用上の注意などの確認を忘れずに。

界面活性剤とは…

合成洗剤や石けんなど、一般の洗剤の主成分になっているのが界面活性剤。
油と水を結びつけやすくする働きによって、汚れを材質から離して落とします。
汚れが再びつきにくくする作用もあります。

### 洗浄剤

主に酸やアルカリの化学作用で汚れを落とします。

キッチンや浴室、トイレなどのしつこい汚れに使用。カビ取り剤、発泡タイプのパイプ用洗剤も、この洗浄剤のひとつです。

一般に合成洗剤よりも強力なため、塗装面をはがしたり、変色させたりする場合もあるので、要注意。説明書きをよく読んでから使いましょう。

### 漂白剤

シミや汚れの色素を化学反応によって分解し、白さを回復させるもの。

酸素を与えて白くする酸化型と、酸素を奪って白くする還元型の 2 種類があります。

●酸素系（酸化型）

塩素系より効き目がおだやか。脱脂力が強く、頑固な油汚れにも効果があります。おそうじが難しい排水管の汚れ落としにも。

●塩素系（酸化型）

漂白力が強いので、カビ汚れに最適。特に、タイルの目地のカビ汚れなどに効果があります。

●還元型

鉄サビ汚れを取る場合に最適です。塩素系漂白剤や鉄分で黄色に変色したものを元の色に戻す働きもあります。

## 研磨剤

クレンザーは、界面活性剤に研磨剤を加えたもの。こびりついた汚れをこすり落とします。粉末タイプとクリームタイプがあり、クリームタイプの方が粒子が細かく傷つきにくい。まずクリームクレンザーから試してみて。

### 4.洗剤と洗浄剤

#### 液性の違いと特性

pH（ペーハー）が低いほど、あるいは高いほど洗浄力はアップしますが材質や手肌への影響も大きくなります。逆に中性の洗剤は洗浄力がマイルドだけど、影響が少ないので安心して使えます。汚れに合わせて使い分けましょう。

液性とは、溶液中の水素イオン濃度 pH（ペーハー）のこと。pH は 0 ～ 14 まであり、pH=7 付近を「中性」、それ以下を「酸性」、それ以上を「アルカリ性」と呼びます。

| pH | 液性 | 長　所 | 短　所 | 汚れの種類 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 酸性 | 便器の尿石、石けんカスに対する効果が高い。 | 材質に与えるダメージが大きい。（特に天然石タイル、金属には影響大） | 尿石、こびりついた石けんカス、水アカ |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | 皮膚や目に与える刺激が強い。 | |
| 4 | 弱酸性 | 軽い石けんカス汚れに効果がある。 | 塩素系漂白剤と混合すると有毒ガスが発生して危険。 | 湯アカ、軽い石けんカス |
| 5 | | | | |
| 6 | | | | |
| 7 | 中性 | 比較的安全性が高い。材質への影響が少ない。 | 比較すると洗浄力が弱い。 | 軽い汚れ ※付着後、長時間経過していない汚れ |
| 8 | | | | |

## 4.洗剤と洗浄剤

### 用途と特徴

たとえば、キッチンの頑固な油汚れなら、洗浄力の強いアルカリ性洗剤で落とす。
ガスレンジのこげつきはクレンザーで。トイレの黄ばみには酸性タイプの洗浄剤を使う。
という具合に、汚れの種類や状態によって、使う洗剤や用具が変わってきます。

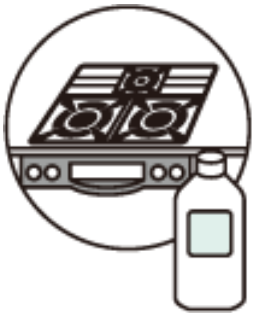
### ① 洗剤は必要なものだけセレクトする

住まいの洗剤をちょっと挙げるだけでも、台所用、住居用、浴室用、トイレ用…といろいろ。さらに場所別だけじゃなく、油汚れ用、カビ用など汚れの種類に合わせて細かく分類されています。でも、これをみんな揃えなくちゃいけない、ということはありません。
なぜなら、ついてすぐの汚れの場合、たいていは洗剤なしでも、水やお湯で落とすことができるからです。
つまり、汚れたらすぐおそうじを実行していれば、強力な洗剤はほとんど必要ないってこと。それに、1日中家にいる時と、外に出ている時では、住まいの汚れ方も違ってくるはず。だから、おそうじの回数や家の汚れ具合に応じて、最低限必要なものからムダなく揃えていくようにしましょう。

ひどい油汚れには
アルカリ性洗剤

### ② 「酸性」「中性」「アルカリ性」の用途はどう違うの？

アルカリ性の洗剤は、しつこい油汚れに効果を発揮。
一方、酸性の洗剤は、尿石や石けんカスなどの汚れに
強いのが特徴。
だから、トイレ用洗剤の場合、普段のおそうじには
中性を、頑固な汚れには強力な酸性を、というように
落としたい汚れに合わせて使い分けましょう。




## ③ マイルドな洗剤から段階的に試していく

ラクしてキレイにしたいといっても、いきなり洗浄力の
強い洗剤を使うのは問題。強い洗剤は効果が高い分だけ、
リスクも大きいからです。特に、酸性やアルカリ性の
洗剤は注意が必要。汚れは落とせても、材質を傷めて
しまったり、手荒れの原因になったりします。まず
マイルドな中性洗剤で試して、それでダメなら、もう少し
強力なものを使う。というように、汚れの落ち具合と材質への
影響をチェックしながら、順々に試してみて。

## ④ 洗剤を使った後はしっかり水拭きを

洗剤成分が残ったままだと、材質を傷める恐れが…。
だから、洗剤を使った後は必ず水拭きをしておくこと。
これはマイルドな洗剤を使用したときでも同じ。
長時間放置すると、材質が変色する場合があります。
「二度拭きが不要」という洗剤も、もう一度水で拭いておく
ほうが、より安心です。

## 4.洗剤と洗浄剤

### 「家庭用品品質表示法」について

洗剤には、商品の裏面のラベルに「家庭用品品質表示法」に基づく表示がされています。
必ず目を通して、おそうじしたい汚れに適しているか、その材質に使用可能か、
判断することが大切です。

### 使う前に表示をよく読んでおきましょう

（例）

家庭用品品質表示法に基づく表示

品　　名：住宅用合成洗剤
成　　分：界面活性剤(1％アルキルアミンオキシド)、溶剤、アルカリ剤、オレンジオイル
液　　性：アルカリ性
用　　途：換気扇・レンジ・レンジまわりのタイル、ステンレス、ビニール床等に
正味量：500mℓ
使用量の目安：1㎡に対して約9回(およそ9mℓ)
使用上の注意：・・・・・・・

## ラベルの見かた

**品名**

洗剤か洗浄剤かの確認を。
合成洗剤は界面活性剤の働きで汚れを落とし、洗浄剤は酸やアルカリの力によって汚れを落とします。

**成分**

界面活性剤については、カッコ表記で総含有率及び種類の名称を表示。
これ以外にも主な働きをする成分については必要に応じて表示が義務付けられています。

**液性**

液性は汚れ落としのポイント。
酸性・弱酸性・中性・弱アルカリ性・アルカリ性の 5 段階に分かれ、酸性やアルカリ性が高くなるほど強く作用します。

**用途**

必ずチェックしましょう。

**正味量**

容器などの重さを除いた量。

**使用上の目安**

洗剤を有効に活かすために守ってほしい量です。

**使用上の注意**

重要な注意事項が書かれているので、必ず読んでください。

## 4.洗剤と洗浄剤

### 「まぜるな危険」について

「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」は十分注意して。混ざると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険です。

**2種類以上の洗剤を混ぜて使わないで！**

原則として、2 種類以上の洗剤を混ぜたり、前後に続けて使用しないように。酸性とアルカリ性の洗剤を一緒に使うと、中和作用を起こして効果が減少してしまいます。
特に、「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険です。
注意事項をよく読んで正しく使いましょう。
また、使用中はしっかり換気をして、ゴム手袋の着用も。

＜一緒に使ってはいけない組み合わせ例＞

## 5.便利な小道具

### こんな小道具を使うと便利です

身のまわりには、おそうじに役立つものがたくさんあります。
上手に利用しましょう。

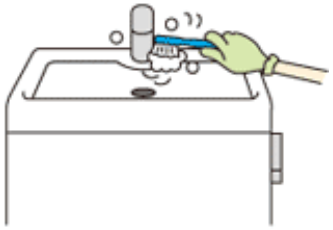
**1【台所用ラップ】**
**洗剤で落ちないしつこい汚れや、**
**壁に貼ったシールはがしなどに**

汚れの部分に洗剤をつけて、上から汚れを覆うくらいの大きさに台所用ラップをカットし、素早く貼りつけます。その後、数分間そのままにしてからはがし、ブラシや、ぞうきんなどで汚れを取ります。

## ②【ジーンズ地】洗面台やステンレスなどの黄バミ、水ジミなどに

クレンザーを使う時、スポンジやタワシでは目の中にクレンザーが入り込んでしまうので、ジーンズ地のような目のつまった布につけてこするのがコツです。ナイロン不織布のスポンジなら研磨剤の入っていないもので。

## ③【古歯ブラシ】窓ガラスのレールや水道栓など細かい接続部の汚れ落としに

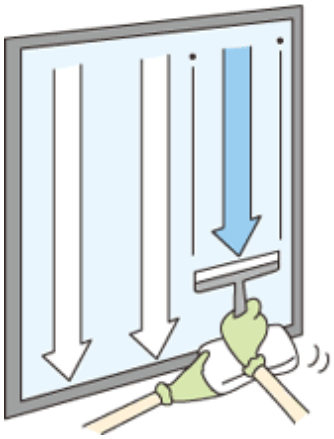


ぞうきんやタワシなどが使いにくい細い箇所、金属やパイプの接合部などは、古歯ブラシを使うと便利。水や洗剤をつけてこすれば、力を入れなくても、カンタンに汚れが落とせます。

## ④【ブラシ】凹凸のある素材のおそうじに

ビニールクロスの壁、すりガラス、タイルの目地のように凹凸のある部分の汚れは、ブラシを使って、円を描くようにこすると、ぞうきんでは落とせない汚れがキレイに落とせます。

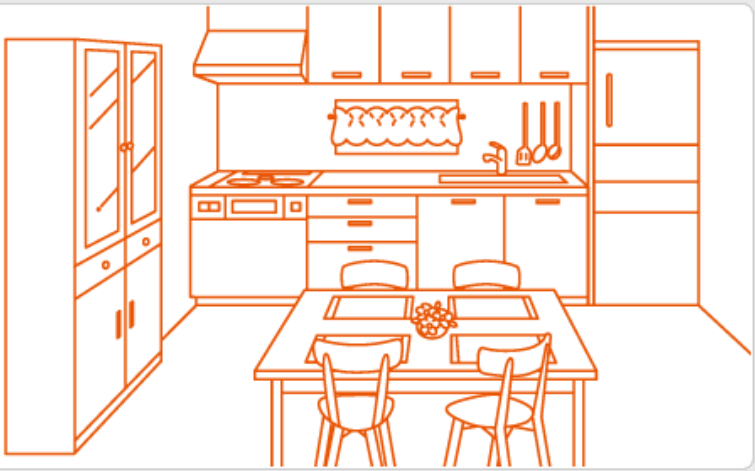
## ⑤【窓用ワイパー】透明ガラスのおそうじに



布などでは、洗剤や水滴が残りやすく、拭き取りが大変。そこで、ゴム製の窓用ワイパーを使っておそうじします。洗剤を残さず、しかもスピーディ。窓ガラスのおそうじがグンとラクになります。

## おそうじのコツ

case1
# キッチン



### レンジフード

ついてすぐ、まだ温かいうちなら簡単に落とせますが、こびりついてしまった油汚れは、なかなか落とせません。汚れがたまった時には、つけおき洗いやラップ法を行いましょう。
レンジフードをおそうじすることで、油で劣化した塗装が、汚れと一緒にはがれることがありますのでご注意ください。

### ふだんのおそうじ

【用具】
・ぞうきん・バケツ、または洗剤不要の極細繊維のクロス・ゴム手袋
【薬剤】
ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス
【準備】

OFF　安全のために、電源を切ります

換気　窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

水に浸し固く絞ったぞうきんで、外側を拭きます。
または、洗剤不要の極細繊維のクロスで拭きます。
軽い汚れがある場合は、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで拭きます。

【アドバイス】使用できる素材や二度拭きの有無などを確認してから使いましょう。

## 念入りおそうじ

【用具】
ぞうきん・バケツ・ヘラや割りバシ・スポンジ・台所用ラップ・ゴム手袋
【薬剤】
酸素系漂白剤台所用洗剤油汚れ用洗剤場合によっては、
ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス
【準備】

OFF
安全のために、電源を切ります。
換気
窓を開け、風通しをよくします。
取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜おそうじの進め方＞
まず、外せる部分を漂白剤溶液でつけおきします。外せない部分のおそうじは、
つけおきをしている間に行います。

全体的に汚れが軽い場合は、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで拭きます。

洗剤を使用する時は、
変色やツヤがなくなったりしないかどうかを、あらかじめ目立たない所で試して
から行ってください。
【注意】
レンジフードの状態によっては、おそうじをすることで、汚れと一緒に
塗装がはがれることがあります。
これは洗剤が原因ではなく、こびりついた汚れが塗装にくっついてしまい、
汚れを取ることによって、塗装も一緒にはがれてしまうためです。

【アドバイス】
レンジフードフィルターを取りつけて、定期的に交換すると、
汚れを防ぐことができ、おそうじが楽になります。

## 外せる部分

1. シンクにぞうきんを敷き、外枠、ガード、羽根部分など、外せる部分はすべて外し、
流し台のシンクに置きます。

【アドバイス】

レンジフードの付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。

2. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、
あらかじめ削り落とします。

【アドバイス】

ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。

汚れが柔らかい場合は、綿の古布や新聞紙で汚れを拭き取ります。

【注意】

油を削り取る時、キリなどの鋭い先のものを使うとキズがつくので避けましょう。

3. つけおきをするために、シンクの栓をします。ぞうきんはシンクに敷いたままに
しておきます。

【アドバイス】

ナイロンの大袋の中に溶液をつくり、その中につけこむ方法もあります。

また、シンクに場所がない場合は、大きなプラスチック容器などを使って、

つけこむ方法もあります。

4. 40 ～ 50℃くらいのお湯を、外したものがつかる程度にため、酸素系漂白剤を
表示通りに溶かします（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。

さらに台所用洗剤をティースプーン 1 ～ 2 杯程度加え、漂白剤溶液をつくります。

【注意】

素材がアルミの場合、酸素系漂白剤につけこむと黒っぽく変色することがあります。

また、塗装が弱いものがありますので、確かめて行ってください。

5. 漂白剤溶液の中に、外したものが、完全につかるようにします。

【アドバイス】

この時に、汚れたレンジの五徳、受け皿、グリルなどもいっしょに入れておくと、

同時におそうじができて効率的です。

6. そのまま 15 ～ 20 分ほど放置した後、シンクの栓を外して漂白剤溶液を流します。

外したものに汚れが残っている場合は、スポンジで汚れをこすります。

【アドバイス】

漂白剤溶液を流すことで、排水口内の汚れも落とせます。

7. 水をかけながら、汚れや漂白剤を洗い流します。シンクの内側も洗います。

8. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

9. よく乾燥させます。

## 外せない部分

【注意】
レンジフードの状態によっては、おそうじをすることで、汚れと一緒に塗装がはがれることがあります。
これは洗剤が原因ではなく、こびりついた汚れが塗装にくっついてしまい、汚れを取ることによって、塗装も一緒にはがれてしまうためです。

1. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、あらかじめ削り落とします。

【アドバイス】
ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。
汚れが柔らかい場合は、綿の古布や新聞紙で汚れを拭き取ります。

【注意】
油を削り取る時、キリなどの鋭い先のものを使うとキズがつくので避けましょう。

2. 水に浸し固く絞ったぞうきんに油汚れ用洗剤をスプレーし、外せない部分を拭きます。
   または、漂白剤溶液に浸し固く絞ったぞうきんで、拭きます。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
4. 汚れが残っている場合は、台所用ラップを、汚れの部分よりも大きめにカットします。
5. 汚れの部分に油汚れ用洗剤、または漂白剤溶液を塗り、上から手早く台所用ラップを貼りつけます。

【注意】
汚れが目線より上にある場合は、洗剤をスプレーしないでください。
ぞうきんやハケに含ませて、塗布します。

【アドバイス】
油汚れ用洗剤、または、漂白剤溶液を含ませたキッチンペーパーで、湿布をした上にラップを貼ると、より洗剤が浸透しやすくなります。

6. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、水に浸し固く絞ったぞうきんで汚れを拭き取ります。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
. よく乾燥させます。

# キッチン

## ガスレンジ

油汚れ、煮こぼれ、焼けこげなどの汚れがほとんどです。
ついてすぐのものは簡単に取れますが、こびりついてくると、だんだん取れにくくなります。
つねに早めに汚れを取ることが大切です。

## ふだんのおそうじ

【用具】

・ふきん・洗いおけ・スポンジ・ゴム手袋

【薬剤】

・台所用洗剤・ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス、または油汚れ用洗剤

【準備】

OFF

安全のために、ガスの元栓を閉めます。

換気

窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

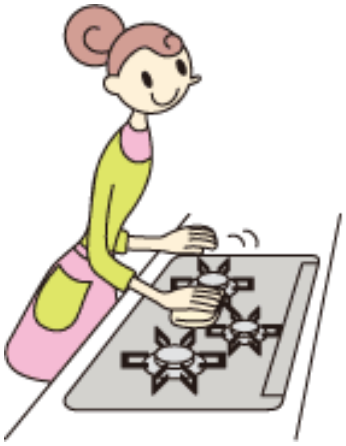
取り外し

外せる部分は外し、終ったら戻します。

ゴム手袋

洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。

液がたれないよう端の部分を少し折り返します。



1. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。
2. 五徳・受け皿・グリル・網など、外せる部分
   軽い汚れがある場合は、水で湿らせたスポンジに台所用洗剤をつけてこすり、
   水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
   【注意】
   フッ素加工のものはキズをつけるとはがれます。キズをつけないために、
   必ず柔らかいスポンジを使ってください。
3. 本体など、外せない部分
   軽い汚れがある場合は、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで拭きます。
   または、水に浸し固く絞ったふきんに油汚れ用洗剤をスプレーし、拭きます。
   その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
4. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。

## キッチン

ガスレンジ

## 念入りおそうじ

油汚れ、煮こぼれ、焼けこげなどの汚れがほとんどです。
ついてすぐのものは簡単に取れますが、こびりついてくると、だんだん取れにく
くなります。つねに早めに汚れを取ることが大切です。

【用具】

・ヘラや割りバシ・ふきん・洗いおけ・スポンジ・台所用ラップ
・ゴム手袋・場合によっては、IH 用スポンジ

【薬剤】

酸素系漂白剤台所用洗剤油汚れ用洗剤石けんつきスチールウール
場合によっては、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス

【準備】

OFF
安全のために、ガスの元栓を閉めます。
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜おそうじの進め方＞
まず、外せる部分を漂白剤溶液でつけおきします。外せない部分のおそうじは、
漂白剤溶液で、つけおきをしている間に行います。

全体的に汚れが軽い場合は、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで
拭き取ります。

洗剤を使用する時は、
変色やツヤがなくなったりしないかどうか、あらかじめ目立たない所で試して
から行ってください。

天板がガラストッププレートの場合は、IH クッキングヒーターも、参照して
ください。

## 外せる部分

1. シンクにふきんを敷き、五徳・受け皿・グリル・網など、外せる部分はすべて外し
   流し台のシンクに置きます。
2. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、あらかじめ削り落とします。

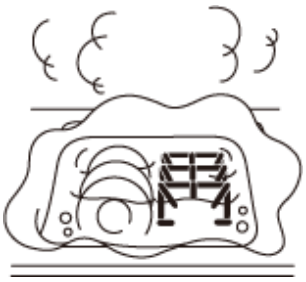
【アドバイス】

ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。
汚れが柔らかい場合は、綿の古布や新聞紙で汚れを拭き取ります。

3. つけおきをするために、シンクの栓をします。ふきんはシンクに敷いたままにしておきます。

【アドバイス】

4. ナイロンの大袋の中に溶液をつくり、その中につけこむ方法もあります。
また、シンクに場所がない場合は、大きなプラスチック容器などを使って、つけこむ方法もあります。



40 ～ 50℃くらいのお湯を、外したものがつかる程度にため、酸素系漂白剤を表示通りに溶かします（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。さらに台所用洗剤をティースプーン 1 ～ 2 杯程度加え、漂白剤溶液をつくります。

【注意】

シンクには、ステンレスの他、アルミやホーローなどがあります。アルミの場合、酸素系漂白剤につけこむと黒っぽく変色することがあります。

5. 漂白剤溶液の中に、外したものが、完全につかるようにします。

6. そのまま 15 ～ 20 分ほど放置した後、シンクの栓を外して漂白剤溶液を流します。
外したものに汚れが残っている場合は、スポンジで汚れをこすります。

【アドバイス】

漂白剤溶液を流すことで、排水口内の汚れも落とせます。

7. 水をかけながら、汚れや漂白剤を洗い流します。シンクの内側も洗います。

8. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。
よく乾燥させます。

## 外せない部分

【注意】

ガスレンジの状態によっては、おそうじをすることで、汚れと一緒に塗装がはがれることがあります。
これは洗剤が原因ではなく、こびりついた汚れが塗装にくっついてしまい、汚れを取ることによって、塗装も一緒にはがれてしまうためです。

1. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、あらかじめ削り落とします。

【アドバイス】

ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。
バーナーの穴の部分は、金属製のブラシや、金串などを通して、こびりついた汚れを取ります。

2. 水を浸し固く絞ったふきんに油汚れ用洗剤をスプレーし、外せない部分を拭きます。
または、漂白剤溶液に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。

【アドバイス】

ゴム管は、はさむようにして汚れを取ります。
ガススイッチのつまみなど、外せるものは漂白剤溶液につけておくと、簡単に汚れが取れます。

3. 水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
4. 汚れが残っている場合は、台所用ラップを、汚れの部分よりも大きめにカットします。
5. 汚れの部分に油汚れ用洗剤、または漂白剤溶液を塗り、上から手早く台所用ラップを貼りつけます。

【アドバイス】
油汚れ用洗剤、または、漂白剤溶液を含ませたキッチンペーパーで、湿布をした上にラップを貼ると、より洗剤が浸透しやすくなります。

6. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、水に浸し固く絞ったふきんで汚れを拭き取ります。その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
7. よく乾燥させます。
8. 焼けこげなどの汚れが残った場合は、水で湿らせた石けんつきスチールウールで、こすり落とします。

その後、外せるものは水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
外せないものは、水に浸し固く絞ったふきんで拭き取ります。

【注意】
強くこするとキズがつくことがありますので、目立たないところで試してから使用してください。

【注意】
石けんつきスチールウールを使った後は、シンクにも水をかけ、金属片を洗い流しておきます。わずかでも金属片が残っていると、サビの原因になります。

## キッチン

### IHクッキングヒーター

#### ふだんのおそうじ

トッププレートの素材は、耐熱性の硬質ガラスです。ある程度強いものですが、継ぎ目から洗剤などが入らないように気をつける必要があります。

【用具】
● ふきん ● 洗いおけ ● IH用スポンジ

【準備】

OFF
安全のために、電源を切ります。

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

IHクッキングヒーターやガスレンジなどの、ガラストッププレートのおそうじは、必ず取扱説明書で確認してから行ってください。

1. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。
2. 軽い汚れがある場合は、水で湿らせた IH 用のスポンジでこすります。
その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れを拭き取ります。
【注意】
IH 用のスポンジは、乾いた状態で使うと、キズがつくことがあります。
必ず水に濡らしてから使ってください。
【アドバイス】
油汚れがある場合は、先に油汚れを取り除いてから、
水で湿らせた IH 用の
スポンジに台所用洗剤（中性）をつけて、こすります。
3. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

## 念入りおそうじ

【用具】
● ふきん ● 洗いおけ ● IH用スポンジ ● ジーンズ地など ● ゴム手袋

【薬剤】
● 台所用洗剤 ● 油汚れ用洗剤 ● クリームクレンザー

【準備】

OFF
安全のために、電源を切ります。

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

IHクッキングヒーターやガスレンジなどの、ガラストッププレートのおそうじは、必ず取扱説明書で確認してから行ってください。

1. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。
2. 油汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったふきんに油汚れ用洗剤をスプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
【注意】
ガラストッププレートに使用できる洗剤かどうかを、必ず取扱説明書で確認してから行ってください。
3. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。
4. 汚れが残っていたら、水で湿らせた IH 用のスポンジに　台所用洗剤（中性）をつけて、こすります。　または、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れを拭き取ります。
【注意】
強くこするとキズがつくことがありますので、目立たないところで試してから使用してください。
【注意】
IH 用のスポンジは、乾いた状態で使うと、キズがつくことがあります。必ず水に濡らしてから使ってください。

## 焼けこげなどの汚れが残った場合

1. 台所用ラップを、汚れの部分よりも大きめにカットします。
2. 油汚れ用洗剤を汚れの部分にスプレーし、上から手早く
   台所用ラップを貼りつけます。

【注意】
ガラストッププレートに使用できる洗剤かどうかを、
必ず取扱説明書で確認してから行ってください。
【アドバイス】
油汚れ用洗剤を含ませたキッチンペーパーで湿布をした上に、
ラップを貼ると、より洗剤が浸透しやすくなります。

3. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、
   水に浸し固く絞ったふきんで、汚れを拭き取ります。
4. 水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

# キッチン

### シンク

水滴はステンレスにとって大敵。つねに乾拭きをして、水分を残さないようにしましょう。
また、塩素に弱い素材のため、塩素系漂白剤を使用したら、しっかり洗い流してください。
ホーローは、キズがつきやすいので、柔らかいスポンジや、中性洗剤を使いましょう。

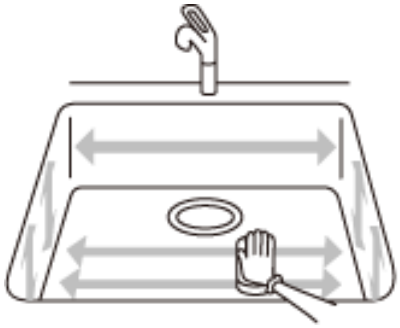
## ふだんのおそうじ

【用具】
・スポンジ・ふきん・洗いおけ・ゴム手袋
【薬剤】
台所用洗剤
【準備】
　　換気
　　窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
　　ゴム手袋
　　洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
　　液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたスポンジに台所用洗剤をつけ、こすります。

【注意】
ステンレスの鏡面仕上げや、ホーローなど、素材によっては、硬いタワシやブラシ
などでこすると、細かいキズがつきます。必ず柔らかいスポンジを使ってください。

【注意】
ステンレスは目に沿って、表面をみがくようにこすります。目にさからってこすると、表面に細かなキズがつき光沢がなくなります。また、そのキズにホコリや汚れが入りこむと、取れにくい汚れの原因にもなります。



2. 水をかけながら、スポンジで汚れや洗剤分を洗い流します。
3. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

## シンク

### 念入りおそうじ

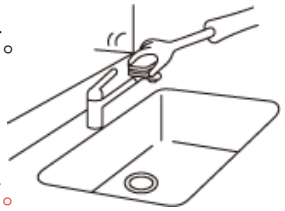
ステンレスの場合

【用具】
・ふきん・洗いおけ・スポンジ・メラミンフォームのスポンジ・ジーンズ地など
・石けんつきスチールウール・ゴム手袋
【薬剤】
・酸素系漂白剤・クリームクレンザー
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 40 ～ 50℃くらいのお湯を、洗いおけにため、酸素系漂白剤を表示通りに溶かし、漂白剤溶液をつくります（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。
2. 漂白剤溶液に浸しゆるく絞ったふきんで、ステンレスの目に沿って拭いて、汚れを落とします。または、漂白剤溶液を含ませたスポンジで、目に沿ってこすります。

【注意】
ステンレスを拭くとき、目にさからってこすると表面に細かなキズがつき、光沢がなくなります。また、そのキズにホコリや汚れが入りこむと、取れにくい汚れの原因にもなります。

3. 水に浸し、ゆるく絞ったふきんで、汚れや漂白剤を拭き取ります。
4. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。



【注意】
水分が残っていると水ジミになってしまい、落としにくくなります。
水道水に含まれているカルシウムなどのミネラル分の付着と塩素イオンによる腐蝕が原因です。つねに乾拭きをして、水分を残さないようにしましょう。

5. 汚れが取れない場合は、水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、こすります。
または、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。
汚れが残っていたら、石けんつきスチールウールで、こすります。
【注意】
つや消しや模様のあるステンレスは、酸素系漂白剤でのおそうじにとどめてください。
素材によっては、キズがつくことがあります。目立たない所で試してから行ってください。

6. 水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
【注意】
石けんつきスチールウールの金属片がわずかでも残っていると、もらいサビの原因になります。
7. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。
8. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

## ホーローの場合

【用具】
・ふきん・洗いおけ・スポンジ・メラミンフォームのスポンジ・ジーンズ地など
・ゴム手袋
【薬剤】
・台所用洗剤・クリームクレンザー
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたスポンジに台所用洗剤をつけ、こすります。

【注意】
硬いタワシやブラシなどでこすると、細かいキズがつきます。
必ず柔らかいスポンジを使ってください。
2. 汚れが取れない場合は、水で湿らせたメラミンフォームのスポンジでこすります。
または、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。
【注意】
素材によっては、ホーローにキズがつくことがあります。目立たない所で試してから行ってください。
3. 水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭きます。
5. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

## キッチン

### 排水口

パイプ内の汚れは、油汚れや食べもののカスなどです。悪臭の原因となり、害虫のすみかにもなりますので、定期的におそうじをして、清潔にしておきましょう。

## ふだんのおそうじ

【用具】

● スポンジ、またはブラシ　● 柄付きブラシ　● ふきん　● ゴム手袋

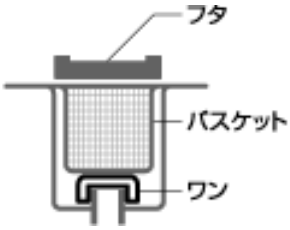
【準備】

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたスポンジ、またはブラシに台所用洗剤をつけて、
排水口のフタ、バスケット、トラップのワンをこすります。
排水口のトラップ内部は、水で湿らせた柄付き
ブラシに台所用洗剤をつけて、こすります。




【アドバイス】
歯ブラシは、細かい部分の汚れ落としに便利ですが、
下に向けた時には、ブラシが当たりません。
トラップ内部のおそうじには、排水口ブラシや靴用ブラシなど、
先までブラシがあるものがおすすめです。

2. 水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
3. 乾いたふきんで、シンクを拭いておきます。

【アドバイス】
雑菌が繁殖しやすい場所ですので、アルコール除菌剤を
スプレーしておくと、菌の繁殖が防げます。

水切りネットを、バスケットの内側にはさんでおくと、
バスケットに汚れがつきにくくなります。ゴミはこまめに捨てましょう。

# 念入りおそうじ

【用具】

● スポンジ、またはブラシ ● 柄付きブラシ ● ふきん ● 洗いおけ ● ゴム手袋

【薬剤】

● 台所用洗剤 ● 酸素系漂白剤

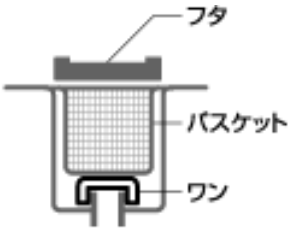
【準備】

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたスポンジ、またはブラシに台所用洗剤をつけて、
排水口のフタ、バスケット、トラップのワンをこすります。
排水口のトラップ内部は、水で湿らせた柄付きブラシに
台所用洗剤をつけて、こすります。




【アドバイス】
歯ブラシは、細かい部分の汚れ落としに便利ですが、
下に向けた時には、ブラシが当たりません。
トラップ内部のおそうじには、排水口ブラシや靴用ブラシなど、
先までブラシがあるものがおすすめです。

2. 水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。

3.40 ～ 50℃のお湯を、外したものがつかる程度にため、
酸素系漂白剤を表示通りに溶かし、漂白剤溶液をつくります
（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。

【アドバイス】
洗いおけにビニール袋などをかぶせます。
また、シンクの栓をし、ナイロンの袋の中に溶液をつくり、
その中につけこむ方法もあります。

4. 漂白剤溶液の中に、外したものが、完全につかるようにします。
5. そのまま 5 分ほど放置した後、漂白剤溶液を流します。

【アドバイス】
漂白剤溶液を流すことで、排水パイプ内の汚れも落とせます。

6. 水をかけながら、外したものとトラップ内部の、汚れや漂白剤を洗い流します。
7. 乾いたふきんで、シンクを拭いておきます。

【アドバイス】
雑菌が繁殖しやすい場所ですので、アルコール除菌剤をスプレーしておくと、
菌の繁殖が防げます。

## 流し台下部

汚れの原因の大半はホコリですが、他に調味料などがこぼれていることがあります。
そのままにしておくとシミになるだけでなく、害虫にとって格好のすみかになりますので、
日頃から清潔にしておくことが大切です。少なくとも、
梅雨前には一度、念入りおそうじをしておきましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】

● 掃除機　● ふきん　● 洗いおけ

【準備】

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り出し
中に入っているものを取り出し、終わったら戻します。

1. 掃除機でホコリを吸い取ります。

【アドバイス】

調味料の容器などが汚れていたら、水に浸し固く絞ったふきんで拭き、
すぐに乾拭きをします。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったふきんで、
内部や扉の汚れを拭き取り、よく乾燥させます。

【アドバイス】

汚れに気づいたら、そのつど水拭きと乾拭きをしておきます。
特に調味料などをこぼしたら、すぐに拭き取るようにしましょう。

### 念入りおそうじ

【用具】

● 掃除機　● ふきん　● 洗いおけ　● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り出し
中に入っているものを取り出し、終わったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 掃除機でホコリを吸い取ります。

【アドバイス】

調味料の容器などが汚れていたら、水に浸し固く絞ったふきんで拭き、すぐに乾拭きをします。

2. 水に浸し固く絞ったふきんで、内部や扉の汚れを拭き取ります。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったふきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

4. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。
よく乾燥させます。

【アドバイス】

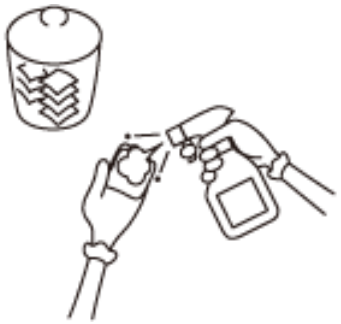
ホコリや湿気がたまりやすくカビの発生しやすい場所です。
時々、半日ほど扉を開けたままにして風を通しましょう。

## 流し台下部のカビ

1. 必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、または塩素系漂白剤の原液をカット綿や綿棒などにつけ、カビの部分に塗ります。

【注意】

「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と
「酸性タイプのもの」が混ざると、有毒塩素ガスが発生して、
とても危険ですので、同時使用はしないでください。
※酸性タイプのトイレ用洗浄剤やクエン酸を使った
おそうじと、カビ取り剤、または塩素系漂白剤を使った
おそうじは、決して、同じ日にしないようにしてください。



2. そのまま 10 分ほど放置した後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れやカビ取り剤を拭き取ります。

3. よく乾燥させます。

【注意】

専用シートを敷いておくと、
調味料や油などがこぼれてもしみ込まず、簡単に拭きとれます。
ただし、専用シートの代わりに、新聞紙や包装紙を敷くのは避けてください。
湿気がたまってカビの原因になります。

## キッチン

### 食器棚（合板など）

合板にはポリエステル合板やメラミン合板があります。
ふだんから、こまめに乾拭きをすることが大切です。
また、水拭きや洗剤拭きをした時も、仕上げは乾拭きをして、よく乾燥させるようにしてください。引き出しの内部が白木（素木）の場合は、水拭きをせず、乾拭きをしてください。

### ふだんのおそうじ

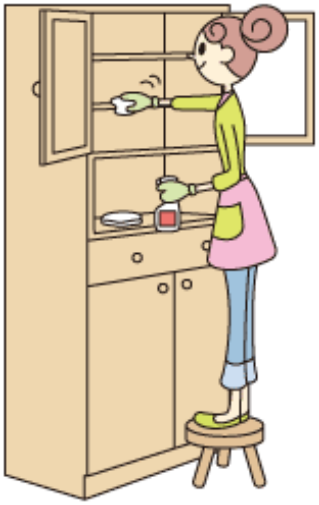
【用具】
・化学モップ、または帯電式のハタキ・ふきん場合によっては、
・脚立（踏み台）
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
1. 化学モップ、または帯電式のハタキで外側のホコリを取ります。
【アドバイス】
水拭き・洗剤拭きを嫌う素材には、帯電式のハタキを使用します。
2. 外側や内側に軽い汚れがある場合は、乾いたふきんで、
　汚れを拭き取ります。

### 念入りおそうじ

【用具】
・ふきん・洗いおけ・掃除機・化学モップ、または帯電式のハタキ・ゴム手袋
・場合によっては、脚立（踏み台）
【薬剤】・住まいの洗剤・ガラス用洗剤
【準備】換気
　　窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
　　取り出し
　　中に入っているものを取り出し、終ったら戻します。
　　ゴム手袋
　　洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
　　液がたれないよう端の部分を少し折り返します。
＜色落ちの有無の確認＞
目立たない箇所で部分的に、水拭き、または洗剤をつけたふきんで拭き、
色が落ちるか落ちないかを確かめます。色落ちしない場合には次の手順で。
※色落ちする場合、ホコリをとるだけにとどめます。

## 内　側

1. 水に浸し固く絞ったふきんで、内側を拭き、すぐに乾拭きをします。
　汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったふきんに住まいの
　洗剤をスプレーし、拭きます。
2. その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を
　拭き取り、すぐに乾拭きをします。



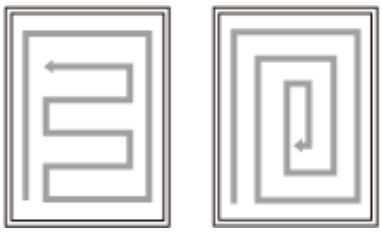
【アドバイス】
レールは、水に浸し固く絞ったふきんの上に
割りバシの先、または、つまようじの丸い方をあてがい、
レールに残っているホコリやごみを拭き取ります。

## 引き出しの内部

1. 引き出しをすべて取り出します。
【アドバイス】
床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。
2. 掃除機などで、引き出しのホコリやゴミを吸い取ります。
　または、引き出しをひっくり返して裏からたたき、ゴミを出します。
3. 水に浸し固く絞ったふきんで、引き出しを拭き、すぐに乾拭きをします。
4. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったふきんに
　住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
　その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取り、すぐに乾拭きをします。
【アドバイス】
引き出しには紙を敷かないように。
湿気がたまってカビの原因や害虫の隠れ家になることがあります。
敷く場合は専用シートを使いましょう。

## ガラス

ガラス用洗剤を、ガラス全体に × 印に、または※印にスプレーします。
【アドバイス】
食器棚の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
取り外せる場合は、ガラス扉を慎重に外し、庭やベランダなどで行います。
水に浸し固く絞ったふきんで、まず端を四角く拭き、つぎに中央に向けて、
洗剤をのばしながら拭いていきます。



【アドバイス】
汚れの軽い内側から拭いていきます。
洗剤が 6 ～ 7 分乾きの時に、乾いたふきんで、
汚れや洗剤分を拭き取ります。
【注意】
洗剤を残しておくと、ニジヤケの原因になり、除去できません。
二度拭きが必要な洗剤かどうか、使用上の注意を確認しておきましょう。

## 外　側

1. 扉や引き出しを閉めた状態で、化学モップ、または帯電式のハタキで、
　外側のホコリを取ります。

【アドバイス】

水拭き・洗剤拭きを嫌う素材には、帯電式のハタキを使用します。

2. 水に浸し固く絞ったふきんで、外側を拭いていき、すぐに乾拭きをします。
　ふきんは、つねにきれなもの、きれいな面を使うようにします。

## キッチン

### 冷蔵庫

外側の汚れの原因は、油煙やタバコのヤニ、手アカなどです。日頃から、こまめに水拭きをして、汚れを落としておくことが大切です。庫内は、食品くずや汚れをこまめに取り除き、数ヵ月に 1 度は、衛生のために、中の食品を取り出して、しっかりおそうじをしましょう。台所用洗剤を使う方法もありますが、酸素系漂白剤を使うと、除菌効果もあります。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

・化学モップ、または掃除機・ふきん・洗いおけ

【準備】

換気

窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 化学モップなどで、外側のホコリを取ります。
または、掃除機で吸い取ります。

【アドバイス】

冷蔵庫の上や、背面、下部の隙間などは、
ホコリがたまりやすい場所です。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞った
　ふきんで、汚れを拭き取ります。
3. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

#### 念入りおそうじ

【用具】

・スポンジ・ふきん・洗いおけ・化学モップ、または掃除機・ゴム手袋

【薬剤】

酸素系漂白剤、または台所用洗剤住まいの洗剤

【準備】

取り出し

中に入っているものを取り出し、終ったら戻します。

OFF　安全のために、電源を切ります。

【換気】
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。
冷蔵庫のおそうじは、必ず取扱説明書で
確認してから行ってください。

## 外せる部分

1.40 ～ 50℃のお湯を、洗いおけにため、酸素系漂白剤を
表示通りに溶かし、漂白剤溶液をつくります
（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。

【アドバイス】
ナイロンの大袋の中に溶液をつくり、
その中につけこむ方法もあります。
【アドバイス】
酸素系漂白剤がない場合は、代わりに台所用洗剤を
表示通りに溶かします（目安はお湯 2 リットルに対
して 3g、ティースプーン 1 杯程度です）。
2. 外したものに水をかけてから、漂白剤溶液に浸し
ゆるく絞ったスポンジで、こすります。

【注意】
スポンジの硬い面でこすると、細かいキズがつきます。
必ず柔らかい面を使ってください。
3. 水をかけながら、汚れや漂白剤を洗い流します。
4. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。

## 庫　内

1. 漂白剤溶液に浸しゆるく絞ったふきんで、庫内を拭きます。
ふきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
2. 水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや漂白剤を拭き取ります。
【アドバイス】
台所用洗剤を使う場合、乾いてからアルコール除菌剤をスプレーしておきます。
ただし、使用できるかどうかを、必ず取扱説明書で確認してから行ってください。
【アドバイス】
パッキン部分のカビは、必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、または塩素系
漂白剤の原液を、ハケか綿棒などで塗ります。そのまま 5 ～ 10 分ほど放置し
た後、しっかり水拭きをします。

※「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」
が混ざると、有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、
同時使用はしないでください。

## 外　側

1. 化学モップなどで、外側のホコリを取ります。または、掃除機で吸い取ります。

【アドバイス】
冷蔵庫の上や、背面、下部の隙間などは、ホコリがたまりやすい場所です。

2. 水に浸し固く絞ったふきんで、拭いていきます。
ふきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固めに絞ったふきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
その後、水に浸し固く絞ったふきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【注意】
洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行います。
上から下に行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、注意してください。
また、洗剤により塗装面が変色したり、表面のツヤがなくなることがありますのでご注意ください。

4. 乾いたふきんで、水気を拭き取ります。

## キッチン

### ビニールクロス

食品を扱う所でもあり、衛生面からも、こまめな手入れを心がけましょう。
油汚れはついてすぐなら比較的簡単に取れますが、
時間が経ってこびりついた油汚れには念入りなおそうじが必要です。

#### ふだんのおそうじ

【用具】
・ぞうきん・バケツ、または洗剤不要の極細繊維のクロス・ゴム手袋
・場合によっては、脚立（踏み台）

【薬剤】
・住まいの洗剤・ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス

【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、下から上へ拭いていきます。
　ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
　または、洗剤不要の極細繊維のクロスで拭きます。

【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの
　洗剤をスプレーし、下から上へ拭きます。その後、水に浸し固く
　絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
　または、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで拭きます。

【アドバイス】
使用できる素材や二度拭きの有無などを確認してから使いましょう。

【注意】
洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行います。上から下に行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、注意してください。また、洗剤により塗装面が変色したり、表面のツヤがなくなることがありますのでご注意ください。

3. よく乾燥させます。

## 念入りおそうじ

食品を扱う所でもあり、衛生面からも、こまめな手入れを心がけましょう。
油汚れはついてすぐなら比較的簡単に取れますが、
時間が経ってこびりついた油汚れには念入りなおそうじが必要です。

【用具】
ぞうきんバケツ台所用ラップゴム手袋場合によっては、脚立（踏み台）

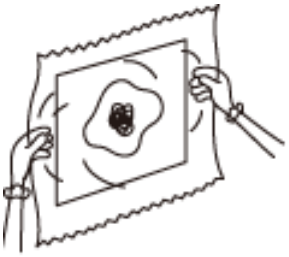
【薬剤】
住まいの洗剤油汚れ用洗剤

【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、
　下から上へ拭きます。汚れがひどい場合は、
　住まいの洗剤の代わりに油汚れ用洗剤を使います。

【アドバイス】
壁の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

【注意】
洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行います。
上から下に行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、注意してください。
また、洗剤により塗装面が変色したり、表面のツヤがなくなることがあります
のでご注意ください。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
3. 汚れが残っている場合は、台所用ラップを、汚れの部分よりも大きめにカットします。
4. 油汚れ用洗剤を汚れの部分にスプレーし、上から手早く台所用ラップを貼りつけます。
【アドバイス】
油汚れ用洗剤を含ませたキッチンペーパーで、湿布をした上に
ラップを貼ると、より洗剤が浸透しやすくなります。



5. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、
　水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取ります。
6. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
7. よく乾燥させます。

## キッチン

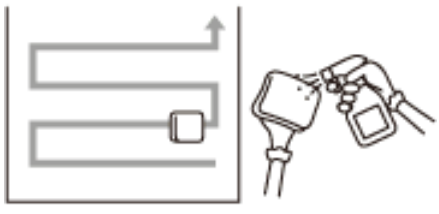
### タイル

タイル壁は、耐水性がありキズもつきにくいので、おそうじのしやすい素材です。
軽い汚れなら、洗剤不要の極細繊維のクロスなどでも取れますが、レンジまわり、
とくに目地にこびりついた油汚れはなかなかとれにくく、念入りなおそうじが必要です。

## ふだんのおそうじ

【用具】
・ぞうきん・バケツ、または洗剤不要の極細繊維のクロス
・ゴム手袋・場合によっては、脚立（踏み台）
【薬剤】
・住まいの洗剤・ペーパータイプのキッチン用おそうじクロス
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、
　下から上へ拭いていきます。
　ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を
　使うようにします。
　または、洗剤不要の極細繊維のクロスで拭きます。



【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、下から上へ拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
または、ペーパータイプのキッチン用おそうじクロスで拭きます。
【アドバイス】
使用できる素材や二度拭きの有無などを確認してから使いましょう。
3. よく乾燥させます。

タイル

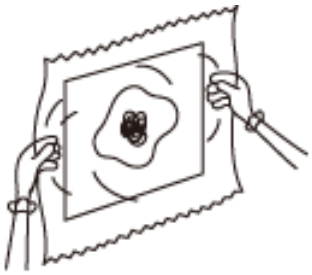
念入りおそうじ

## 油汚れ用洗剤を使う方法

【用具】
・ヘラや割りバシ・ぞうきん・バケツ・スポンジ・ブラシ・台所用ラップ
・ゴム手袋・場合によっては、脚立（踏み台）
【薬剤】
・油汚れ用洗剤
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、あらかじめ削り落とします。
2. 水に浸しゆるく絞ったぞうきん、または水を含ませたスポンジに油汚れ用洗剤をスプレーし、塗っていきます。
【アドバイス】
目地の部分は特にしっかり塗ってください。
3. そのまま 5 分ほど放置した後、水で湿らせたブラシで、目地の部分を中心にこすり、汚れを落とします。
【アドバイス】
目地の部分の汚れが取れない場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけて、こする方法もあります。
4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. ヨゴレが残っている場合は、台所用ラップを、汚れの部分よりも大きめにカットします。

6. 油汚れ用洗剤を汚れの部分にスプレーし、上から手早く
台所用ラップを貼りつけます。



【アドバイス】
油汚れ用洗剤を含ませたキッチンペーパーで、
湿布をした上にラップを貼ると、
より洗剤が浸透しやすくなります。

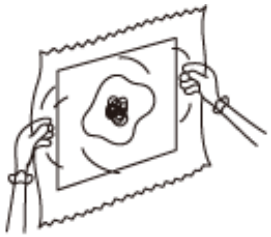
7. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、水で湿らせたブラシで、
目地の部分を中心にこすり、汚れを落とします。
8. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
9. よく乾燥させます。

## 酸素系漂白剤を使う方法

【用具】
・ヘラや割りバシ・ぞうきん・バケツ・スポンジ・ブラシ・台所用ラップ・ゴム手袋
・場合によっては、脚立（踏み台）

【薬剤】
・酸素系漂白剤
【準備】
換気
窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

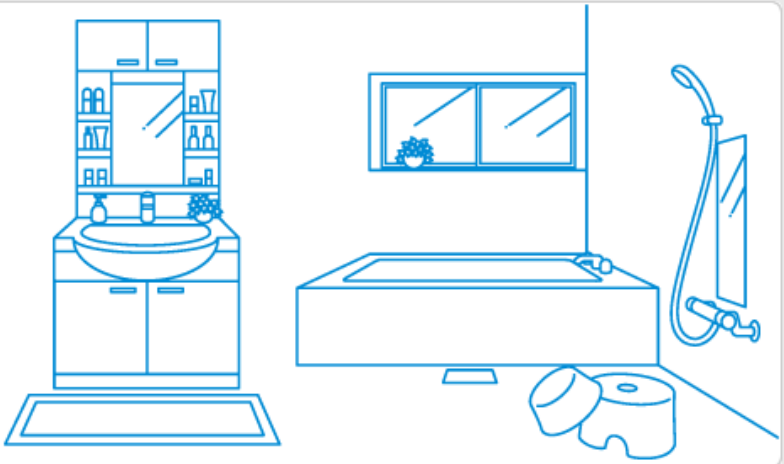
1. 油がこびりついている部分は、ヘラや割りバシなどで、あらかじめ削り落とします。
2.40 ～ 50℃くらいのお湯を、洗いおけにため、
3. 酸素系漂白剤を表示通りに溶かし、
漂白剤溶液をつくります。
（目安はお湯 2 リットルに対して 8g です）。



漂白剤溶液に浸しゆるく絞ったぞうきん、
またはスポンジで、漂白剤溶液を壁全体に塗っていきます。
4. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、
目地の部分を中心に拭いて、汚れを落とします。
5. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや漂白剤を拭き取ります。
6. 汚れが残っている場合は、台所用ラップを、
汚れの部分よりも大きめにカットします。
7. 漂白剤溶液をぞうきん、またはスポンジにつけ、汚れの部分に塗り、
上から手早く台所用ラップを貼りつけます。

【アドバイス】
漂白剤溶液を含ませたキッチンペーパーで、湿布をした上にラップを貼ると、
より洗剤が浸透しやすくなります。
そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、水で湿らせたブラシで、
目地の部分を中心にこすり、汚れを落とします。
水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや漂白剤を拭き取ります。
よく乾燥させます。

case2
## 浴室・洗面所



## 浴室・洗面所

### プラスチック・ポリ

以前は柔らかく、キズのつきやすいポリでしたが、最近ではガラス繊維強化プラスチックと呼ばれる FRP 製が主流を占めてきています。水位部分にこびりついた水ジミにはクリームクレンザーを使いますが、ポリ製の場合はキズがつくことがありますので、ご注意ください。
また、材質によっては酸性洗剤やアルカリ洗剤で変色することがありますので、確かめたうえで行ってください。

### ふだんのおそうじ

【用具】
● スポンジ ● ゴム手袋 ● 浴室用靴

【薬剤】
● 浴室用洗剤(中性タイプ)

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

浴室用靴
浴室用靴をはきます。

1. 全体に水をかけて濡らします。
   水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、円を描くように洗剤をなじませ、
   全体をこすります。

【注意】
硬いタワシやブラシなどでこすると、細かいキズがつきます。
必ず柔らかいスポンジを使ってください。

【アドバイス】
アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、
毎日の洗剤使用は必要ありません。週に 1 ～ 2 回の洗剤使用で充分です。

3. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 素手でさわってザラザラ感があれば、(2) と (3) を繰り返します。
5. よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで
水切りしておくと、シミがつきにくくなります。

プラスチック・ポリ

## 念入りおそうじ

【用具】
● スポンジ ● メラミンフォームのスポンジ ● ジーンズ地など ● ゴム手袋
● 浴室用靴

【薬剤】
● 浴室用洗剤(中性タイプ) ● クリームクレンザー

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

浴室用靴
浴室用靴をはきます。

1. 全体に水をかけて濡らします。
2. 水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、 円を描くように洗剤をなじませ、
   全体をこすります。

【注意】
硬いタワシやブラシなどでこすると、細かいキズがつきます。
必ず柔らかいスポンジを使ってください。

【アドバイス】
アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、
毎日の洗剤使用は必要ありません。

3. 石けんカスなどの汚れが取れない場合は、
　水で湿らせたメラミンフォームのスポンジでこすります。

【注意】
ポリ製の場合はクリームクレンザーでキズがつくことがありますので、ご注意ください。

4. 水位線部分の汚れが取れない場合は、水で湿らせたジーンズ地などに
　クリームクレンザーをつけ、こすります。

【注意】
素材によっては、クリームクレンザーで、キズがついたり、
ツヤがなくなることがあります。目立たない所で試してから行ってください。

5. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。

6. よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで
水切りしておくと、シミがつきにくくなります。

## 浴室・洗面所

ステンレス

### ふだんのおそうじ

【用具】

- スポンジ
- ゴム手袋
- 浴室用靴

【薬剤】

- 浴室用洗剤（中性タイプ）

【準備】

**換気**
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

**ゴム手袋**
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

**浴室用靴**
浴室用靴をはきます。

1. 全体に水をかけて濡らします。
2. 水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、必ずステンレスの目に沿って、全体をこすります。

【注意】
必ずステンレスの目に沿ってこすりましょう。目にさからってこすると表面に細かなキズがつき、光沢がなくなります。
また、そのキズにホコリや汚れが入りこむと、取れにくい汚れの原因にもなります。

【アドバイス】
アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、毎日の洗剤使用は必要ありません。週に 1 ～ 2 回の洗剤使用で充分です。

3. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 素手でさわってザラザラ感があれば、(2) と (3) を繰り返します。
5. よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで水切りしておくと、シミがつきにくくなります。

## 念入りおそうじ

【用具】
- スポンジ
- メラミンフォームのスポンジ
- ジーンズ地など
- ゴム手袋
- 浴室用靴

【薬剤】
- 浴室用洗剤（中性タイプ）
- クリームクレンザー

【準備】

**換気**
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

**ゴム手袋**
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

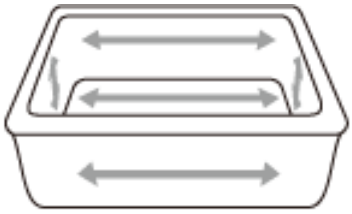
**浴室用靴**
浴室用靴をはきます。

1. 全体に水をかけて濡らします。
2. 水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、必ずステンレスの目に沿って、全体をこすります。

【注意】
必ずステンレスの目に沿ってこすりましょう。
目にさからってこすると表面に細かなキズがつき、光沢がなくなります。
また、そのキズにホコリや汚れが入りこむと、取れにくい汚れの原因にもなります。

【アドバイス】
アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、
毎日の洗剤使用は必要ありません。週に 1 ～ 2 回の洗剤使用で充分です。

3. 石けんカスなどの汚れが取れない場合は、
水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、
目に沿ってこすります。または、水で湿らせた
ジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、
目に沿ってこすります。



【注意】
メラミンフォームのスポンジやクリームクレンザーでこすると、表面のツヤがなくなることがあります。目立たない所で試してから行ってください。
ステンレスが模様入りやツヤ消しの場合は、キズが目立ちますので、
浴室用洗剤にとどめてください。

4. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
5. よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した
窓用ワイパーで水切りしておくと、シミがつきにくくなります。

## 浴室・洗面所

### タイル

目地についたカビ、水アカなどは非常に落ちにくく、カビの場合はカビ取り剤や塩素系漂白剤を使う必要があります。換気に注意し、手足をしっかり保護して行います。
輸入タイルの場合、酸性洗剤や塩素系漂白剤で変色するものもあります。
確かめたうえで行ってください。

### ふだんのおそうじ

【用具】
● ブラシ ● ゴム手袋 ● 浴室用靴

【薬剤】
● 浴室用洗剤（中性タイプ）

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

浴室用靴
浴室用靴をはきます。

1. 全体に水をかけて濡らします。
2. 水で湿らせたブラシに浴室用洗剤をスプレーし、全体をこすります。
3. シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで
水切りしておくと、カビが生えにくくなります。

## 念入りおそうじ

【用具】
● ブラシ ● メラミンフォームのスポンジ ● ジーンズ地など ● ハケ ● ゴム手袋
● 浴室用靴 ● ゴーグル ● マスク

【薬剤】
● 浴室用洗剤（中性タイプ） ● クリームクレンザー ● カビ取り剤、または塩素系漂白剤

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

浴室用靴
浴室用靴をはきます。

ゴーグル・マスク
ゴーグル、マスクなどをつけて保護します。

1. 全体に水をかけて濡らします。
2. 水で湿らせたブラシに浴室用洗剤をスプレーし、全体をこすります。
3. 目地の部分の汚れが取れない場合は、水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、
こすります。または、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、
こすります。シャワーなどで水をかけながら、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. カビが生えている場合は、カビ取り剤をスプレーします。
または、塩素系漂白剤をハケなどにつけ、カビの部分に塗ります。
顔や手足などにつかないよう、注意して行ってください。

【注意】
「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると、
有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。
※クエン酸を使ったおそうじと、カビ取り剤、または塩素系漂白剤を使ったおそうじは、
決して、同じ日にしないようにしてください。
そのまま 5 ～ 10 分ほど放置し、カビの色が消えるのを待ちます。
色がなかなか消えない部分は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、
こすります。シャワーなどで水をかけながら、汚れやカビ取り剤などを洗い流します。
よく乾燥させます。

【アドバイス】
乾いたぞうきんで水気を拭き取るか、風呂用に用意した窓用ワイパーで
水切りしておくと、シミがつきにくくなります。
【アドバイス】
浴室全体や天井にカビが生えている場合は、専門業者に依頼されることをおすすめします。

## 浴室・洗面所

### 洗面ボウル

こまめにおそうじをして、中性洗剤を使う程度にとどめるのがポイントです。素材によっては、酸性に弱い材質もあるので、酸性洗剤を使用する場合は、注意が必要です。
また、ホーローなど塩素系漂白剤で変色してしまう素材もありますのでご注意ください。

#### ふだんのおそうじ

【用具】
- メラミンフォームのスポンジ
- ぞうきん

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、
洗面ボウルをこすります。
【アドバイス】
アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、
洗剤不要のスポンジを使うと、毎日の洗剤使用は
必要ありません。週に 1 ～ 2 回の洗剤使用で充分です。
2. 水をかけ、汚れを洗い流します。
3. 乾いたぞうきんで、洗面ボウルまわりの水気を拭き取ります。

#### 念入りおそうじ

【用具】
- メラミンフォームのスポンジ
- スポンジ
- ジーンズ地など
- ぞうきん
- ゴム手袋

【薬剤】
- 浴室用洗剤（中性タイプ）
- クリームクレンザー

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、洗面ボウルをこすります。

【アドバイス】

アルミ蒸着フィルム製のスポンジなど、洗剤不要のスポンジを使うと、
毎日の洗剤使用は必要ありません。週に 1 ～ 2 回の洗剤使用で充分です。

2. 汚れが取れない場合は、水で湿らせたスポンジに浴室用洗剤をスプレーし、
こすります。

【アドバイス】

アルミ蒸着フィルム製のスポンジに洗剤をつける場合は、
中性の洗剤を使用します。

3. 汚れが残っていたら、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザー
をつけ、こすります。
4. 水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
5. 乾いたぞうきんで、洗面ボウルまわりの水気を拭き取ります。

## 浴室・洗面所

### カラン（蛇口）

水道の蛇口は、いつも光らせておきましょう。
そうすれば、まわりがとてもきれいに見えます。つねにスポンジを置いておきましょう。
また、水滴をこまめに拭きとることもポイントです。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

● メラミンフォームのスポンジ　● ぞうきん

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、
蛇口やそのまわりをこすります。
2. 水をかけ、汚れを洗い流します。
3. 乾いたぞうきんで、蛇口まわりの水気を拭き取ります。

## 念入りおそうじ

【用具】

● メラミンフォームのスポンジ ● ジーンズ地など ● ぞうきん ● ゴム手袋

【薬剤】

● クリームクレンザー

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、蛇口やそのまわりをこすります。
2. 汚れが取れない場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、蛇口の金属部分をこすります。
3. 同様に、水道の根元部分もこすります。

【アドバイス】

水道の根元部分は、細いブラシやメガネクロスなどでこすると、細かい部分もよく取れます。

4. 水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
5. 乾いたぞうきんで、蛇口まわりの水気を拭き取ります。

# 浴室・洗面所

### キャビネット

ホコリや湿気がたまりやすくカビの発生しやすい場所です。
時々、開け放して風を通しましょう。
おそうじの際は、外せる棚は外して行い、収納物は包装紙などを広げた床の上などにまとめて置くようにします。なお、ヘアピンなどはもらいサビの原因になるので、直に置かないようにしてください。洗剤によっては、プラスチックが変色したり、ツヤがなくなったりすることがあります。確かめたうえで行ってください。

## ふだんのおそうじ

【用具】

● ぞうきん ● バケツ

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。
ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
2. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
【アドバイス】
汚れに気づいたら、そのつど水拭きと乾拭きをしておきます。
特に化粧品などをこぼしたら、すぐに拭き取るようにしましょう。
3. よく乾燥させます。

## 念入りおそうじ

【用具】

● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り出し
中に入っているものを取り出し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、
つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
2. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに
住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
【注意】
洗剤によっては、プラスチックが変色したり、ツヤがなくなったりすること
があります。目立たない所で試してから行ってください。
3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
4. よく乾燥させます。
【アドバイス】
ホコリや湿気がたまりやすくカビの発生しやすい場所です。
時々、半日ほど扉を開けたままにして風を通しましょう。

# 浴室・洗面所

## 照明器具

照明カバー内部の汚れは比較的軽いものですが、定期的におそうじをしましょう。
安全のため電源を切り、カバーなど外せるものは、できるだけ外して行います。

### ふだんのおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ

【準備】

OFF
安全のために、スイッチを切ります。

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取ります。
3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

### 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ　● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

OFF
安全のために、スイッチを切ります。

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、外した蛍光灯や電灯を、
   くるむようにして拭きます。
   ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】

床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに
   住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】
照明カバーなど、洗えるものは、浴室などを利用して洗います。
水をかけてから、水で湿らせたスポンジに住まいの洗剤をスプレーし、こすります。
水をかけて、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

## 浴室・洗面所

### 内側　洗濯機

外側はプラスチック、洗濯槽内はプラスチックやステンレスです。
洗濯槽内では、洗濯物が回転して表面にすりキズをつけるため、
そこに汚れが入りこんでしまうことがあります。
外側、内側とも、汚れは早めに取るようにしましょう。

#### ふだんのおそうじ

【用具】
● スポンジ　● ぞうきん

【準備】
換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 水で湿らせたスポンジで、洗濯機の内側をこすります。
【アドバイス】
プラスチックは傷つきやすいため、あまり強い力でこすらないようにします。
2. 水をかけ、汚れや洗濯槽に残っていた洗剤分を洗い流します。
3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
4. よく乾燥させます。

#### 念入りおそうじ

【用具】
● スポンジ　● ぞうきん　● ゴム手袋

【準備】
換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. ぬるま湯、できれば 40 ～ 50℃のお湯を、
   洗濯槽のいちばん上の水位までためます。
2. 表示されている量の酸素系漂白剤を入れ、洗濯機を 15 分ほど運転し、
   そのまま数時間放置します。
   その後、もう一度、15 分ほど回し、洗濯槽の中の液を流します。

【アドバイス】
漂白剤の量や、使用時間については、洗剤に表示されている内容を確認してください。

【注意】
このとき、洗濯物を入れないようにしてください。

3. ホースなどで、水をたっぷりかけ、汚れや漂白剤を洗い流します。

【アドバイス】
洗濯機についている糸くずフィルターなども、きれいにしておきましょう。

4. 汚れが残っている場合は、水で湿らせたスポンジで、洗濯機の内側をこすります。
その後、水をかけ、汚れや洗濯槽に残っていた漂白剤を洗い流します。

【アドバイス】
または、高水位に設定し、標準コースで運転します。

5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
6. よく乾燥させます。

## 外側 洗濯機

### ふだんのおそうじ

【用具】
● 化学モップ、または掃除機　● ぞうきん　● バケツ

【準備】
換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

1. 化学モップなどで、隙間やホースのジャバラ面などのホコリを取ります。または掃除機で吸い取ります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、洗濯機の外側を拭いていきます。
   ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】
プラスチックは傷つきやすいため、あまり強い力でこすらないようにします。

1. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
2. よく乾燥させます。

## 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または掃除機 ● ぞうきん ● バケツ ● ブラシ ● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

換気

ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋

ゴム手袋をはめ、液がたれないよう端の部分を折り返します。

1. 化学モップなどで、隙間やホースのジャバラ面などのホコリを取ります。
   または、掃除機で吸い取ります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、洗濯機の外側を拭いていきます。
   ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

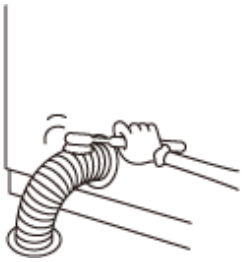
【アドバイス】

プラスチックは傷つきやすいため、あまり強い力でこすらないようにします。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに
   住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【注意】

洗剤によっては、プラスチックが変色したり、
ツヤがなくなったりすることがあります。
目立たない所で試してから行ってください。



4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、ホースのジャバラ面を、
   はさむようにして拭きます。汚れが取れない場合は、
   水で湿らせたブラシに住まいの洗剤をスプレーし、凹凸の部分をこすります。
   水に浸しゆるく絞ったぞうきんで拭き、
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤を拭き取ります。
5. 乾いたぞうきんで、洗濯機の外側とジャバラ面などの水気を拭き取ります。

case3

# トイレ

## トイレ

### 内部

中性タイプの洗剤で取れない汚れは、黄ばみや尿石がほとんどです。この場合は酸性洗剤を使います。トイレ用の洗浄剤には、「まぜるな危険」と表示されている、「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が両方あります。同時、または連続して使用すると有毒な塩素ガスが発生して、とても危険です。注意事項をよく読んで正しく使いましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】

トイレ用ブラシ　ぞうきん　バケツ　ゴム手袋

【薬剤】

トイレ用洗剤（中性タイプ）　除菌クロスなど

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 便器の中にトイレ用洗剤（中性タイプ）をかけ、トイレ用ブラシでこすります。
　かえしのあるものは、便器の縁の内側もこすります。

【アドバイス】

毎日１回、水を流してトイレ用ブラシでこすると、汚れがたまりにくくなります。

2. 水を流し、汚れや洗剤分を洗い流します。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、便器のまわりを拭きます。
または、除菌クロスなどで拭きます。

## 念入りおそうじ

【用具】

●トイレ用ブラシ　●ぞうきん　●バケツ　●ゴム手袋

【薬剤】

●トイレ用洗剤（中性タイプ）　●トイレ用洗剤（酸性タイプ）　●除菌クロスなど

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 便器の中にトイレ用洗剤（中性タイプ）をかけ、トイレ用ブラシでこすります。
   かえしのあるものは、便器の縁の内側もこすります。汚れが取れない場合は、
   トイレ用洗剤（酸性タイプ）を使います。
2. 汚れがひどい場合は、黄ばみや尿石の部分にトイレ用洗剤（酸性タイプ）をかけ、
   その上からトイレットペーパーを貼りつけます。便器の縁の内側にも、トイレット
   ペーパーに洗剤を含ませて貼りつけます。

【アドバイス】

便器内にたまっている水を、空にしてから行うのがポイントです。

【注意】

「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると、有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

3. そのまま 30 分ほど放置した後、トイレ用ブラシでこすります。汚れが取れない場合は
   （2）と（3）を繰り返します。

【アドバイス】

使ったトイレットペーパーは、便器に流さずゴミとして捨てます。

【アドバイス】

それでも黄ばみが取れない場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、汚れの部分をこすります。取れにくい尿石などの汚れは、耐水ペーパー（1000 ～ 1500 番）でこすり取ります。トイレットペーパーで汚れや洗剤分を拭き取ります。キズがつく場合がありますので、汚れの状況と対処後の状況を判断したうえで、作業を進めてください。

4. 水を流し、汚れや洗剤分を洗い流します。
5. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、便器のまわりを拭きます。
   または、除菌クロスなどで拭きます。

## 洗浄ノズル部分

洗浄ノズル部分を引き出します。
【アドバイス】
ノズルの出し方は各メーカーによって異なります。
取り扱い説明書を確認してください。
ブラシでこすって汚れを落とします。汚れが取れない場合は、
トイレ用洗剤（中性タイプ）をつけ、こすります。
【注意】
ブラシや洗剤によっては、ノズルを傷める場合があります。
使用できるかどうかを、取り扱い説明書で確認してから行ってください。
水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
【アドバイス】
グラスなどの容器に水を入れて、洗い流します。
洗浄ノズル部分を戻します。

## トイレ

### 外側・便座・フタ

便座やフタはプラスチックで傷つきやすいため、ホコリがたまったまま水拭きをしたり、強い洗剤を使用したりしないように注意しましょう。汚れに気づいたら、こまめに拭き取るようにしましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】
● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】
● 除菌クロスなど

【準備】
換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

水に浸し固く絞ったぞうきんで、フタ、便座、便器の外側を拭きます。または、除菌クロスなどで拭きます。
【アドバイス】
プラスチックは傷つきやすいため、あらかじめホコリを取ってから、拭きましょう。
乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

## 念入りおそうじ

【用具】

● ぞうきん　● バケツ　● 割りバシと綿の古布　● ゴム手袋

【薬剤】

● 除菌クロスなど　● 住まいの洗剤

【準備】

換気

ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

ゴム手袋

洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

水に浸し固く絞ったぞうきんで、フタ、便座、便器の外側を拭きます。
または、除菌クロスなどで拭きます。

【アドバイス】

プラスチックは傷つきやすいため、あらかじめホコリを取ってから、拭きましょう。

汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし拭きます。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
フタとりつけ部の隙間などに入り込んでいる汚れは、割りバシに綿の古布を巻きつけ、
住まいの洗剤をスプレーし、こすります。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】

隙間用スポンジや、綿棒なども使うことができます。
また、便座を外す場合は、トイレの取扱説明書を確認してから行いましょう。

乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

### クッション用ゴムやゴム製ワッシャー部分のカビ

必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、または塩素系漂白剤の原液をハケや綿棒などにつけ、
カビの部分に塗ります。

【注意】

「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると、
有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

※酸性タイプのトイレ用洗浄剤やクエン酸を使ったおそうじと、カビ取り剤、または塩素
系漂白剤を使ったおそうじは、決して、同じ日にしないようにしてください。

カビ取り剤を塗った部分に、台所用ラップをはりつけ、そのまま 5 ～ 10 分ほど放置します。
水に浸しゆるく絞ったぞうきんで拭き、その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや
カビ取り剤を拭き取ります。
乾いたぞうきんで、水気を拭き取り、よく乾燥させます。

# トイレ

## 水洗タンク

タンクの手洗い部分は、ホコリがたまりやすく、水道水中のカルシウム分がこびりつくと取れなくなるので、こまめにおそうじをしましょう。タンクの内部は、カビ、藻、サビ、水アカが発生しやすいので、定期的に内部をチェックして、汚れていれば、おそうじする必要があります。

### ふだんのおそうじ

【用具】

● メラミンフォームのスポンジ　● ぞうきん　● バケツ

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

移動
タンク手洗い部分に置いてあるものを移動させ、終ったら戻します。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、水道金具とタンクの手洗い部分をこすり、水を流します。

【アドバイス】

水道金具の根元部分に軽い汚れがある場合は、水をつけたブラシで、こすります。

2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、水道金具、タンク外側、洗浄レバー部分などを拭きます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

【アドバイス】

汚れ、ニオイを防ぐために、トイレ用防汚剤などを置くのもいいでしょう。

### 念入りおそうじ

【用具】

● メラミンフォームのスポンジ　● ブラシ　● ジーンズ地など　● ぞうきん　● バケツ
● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤　● クリームクレンザー

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

移動
タンク手洗い部分に置いてあるものを移動させ、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで、水道金具とタンクの手洗い部分をこすり、水を流します。
2. 水道金具の根元部分は、水をつけたブラシでこすり、汚れが取れない場合は、ブラシに住まいの洗剤をスプレーし、こすります。汚れがひどい場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
3. タンクの手洗い部分の汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。汚れがひどい場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】
それでもとれない水アカは、水で湿らせた耐水ペーパー（1000 ～ 1500 番）で削ります。キズがつく場合がありますので、汚れの状況と対処後の状況を判断したうえで、作業を進めてください。

4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、水道金具、タンク外側、洗浄レバー部分などを拭きます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
5. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
6. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

## トイレ

### クッションフロアなど

トイレの床はホコリだけでなく、尿や水滴、結露の水などもニオイやシミの原因になります。尿がそのまま放置されると、成分であるアンモニアによって黒いシミが発生し、長時間そのままにしておくと床材を傷める原因にもなります。床にこぼれた水分や尿は、すぐに拭き取るように心がけましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】
● 掃除機など　● ぞうきん　● バケツ　● ゴム手袋

【薬剤】
● 除菌クロスなど

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

移動
床に置いてあるものを移動させ、終わったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 掃除機などで、ホコリを吸い取ります。
2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取ります。
   または、除菌クロスなどで拭きます。

【アドバイス】

白木（素木）を拭くときは、木目に沿って拭きます。

3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
4. よく乾燥させます。

## 念入りおそうじ

【用具】

● 掃除機など　● ぞうきん　● バケツ　● ゴム手袋

【薬剤】

● 除菌クロスなど

【準備】

換気
ドアや窓を開け、換気扇をまわして換気をよくします。

移動
床に置いてあるものを移動させ、終わったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 掃除機などで、ホコリを吸い取ります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。または、除菌クロスなどで拭きます。

【アドバイス】

白木（素木）を拭くときは、木目に沿って拭きます。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】

タイル床の汚れが取れない場合は、水で湿らせたスポンジ、またはブラシに住まいの洗剤をつけ、目地の部分を中心にこすります。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

4. 便器と床の隙間などに入り込んでいる汚れは、割りバシに綿の古布を巻きつけ、住まいの洗剤をスプレーし、こすります。
   その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

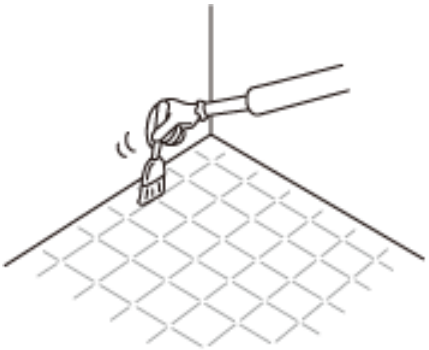
【アドバイス】

細かい汚れや水分も取り除くようにします。

5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
6. よく乾燥させます。

## タイル床のカビ

1. 必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、または塩素系漂白剤の原液をハケやブラシなどにつけ、カビの部分に塗ります。
床の奥の方から手前に向かって塗るようにしてください。



【注意】
「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると、
有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

※酸性タイプのトイレ用洗浄剤やクエン酸を使ったおそうじと、カビ取り剤、または塩素系漂白剤を使ったおそうじは、決して、同じ日にしないようにしてください。

2. そのまま 5 ～ 10 分ほど放置し、カビや黄ばみの色が消えてくるのを待ちます。
色がなかなか消えない部分は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけ、こすります。
3. 水に浸しゆるく絞ったぞうきんで目地の部分を拭き、その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れやカビ取り剤などを拭き取ります。
4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取り、よく乾燥させます。

## クッションフロアに尿が浸みて臭う場合

1. 水 4 リットル（バケツ半分程度）の水に、クエン酸（40g）を入れて溶液をつくります。

【注意】
「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混ざると、
有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

※クエン酸を使ったおそうじと、カビ取り剤、または塩素系漂白剤を使ったおそうじは、 決して、同じ日にしないようにしてください。

2. クエン酸溶液に浸しゆるく絞ったぞうきんで、床全体を拭きます。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや溶液分を拭き取ります。
3. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取り、よく乾燥させます。

case4
# リビング

## 照明器具

熱のため意外に汚れがこびりついています。洗浄の前に必ず電源を切り、冷めてから作業を行ってください。電気の傘には布や紙など水が使用できないものがあります。布や紙のものはホコリを払う程度にとどめます。

リビング

### ふだんのおそうじ

【用具】

- 化学モップ、または帯電式のハタキ
- ぞうきん
- バケツ
- 場合によっては、脚立（踏み台）

【準備】

OFF
安全のために、スイッチを切ります。

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。

【アドバイス】
布や紙張りのものには、帯電式のハタキを使用します。

2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで汚れを拭き取ります。

リビング　照明器具

### 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ ● ぞうきん ● バケツ ● スポンジ ● ゴム手袋
● 場合によっては、脚立（踏み台）

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

OFF
安全のために、スイッチを切ります。

換気
窓を開け、風通しをよくします。

取り外し
外せる部分は外し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。

【アドバイス】

布や紙張りのものには、帯電式のハタキを使用します。

2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、蛍光灯や電灯など、外した部分を拭いていきます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】

床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

【注意】

外したものを包装紙などの上に置く場合、落として割らないように注意してください。また、足場にも気を配ってください。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

4. コードや外せない部分も同様に、汚れを拭き取ります。

【アドバイス】

布のコードについたホコリは、粘着テープやガムテープ ( 粘着剤を外側にして輪にしたもの ) で取ります。

5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

## 電気のシェード

電気の傘やカバーなどのシェード部分は、材質によって下記のように行います。

### 水で洗える場合（プラスチック、金属、ガラスなど）

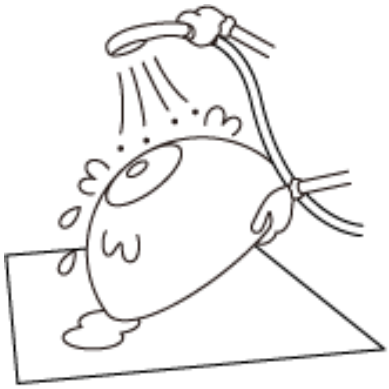
1. 取り外したものを、浴室またはベランダなど水の使える場所に持っていきます。

【アドバイス】

キズがつかないように、ぞうきんやビニールシート
などを下に敷きましょう。

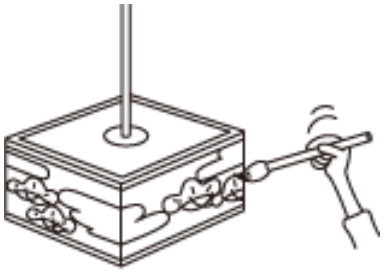
2. 水をかけます。

3. 柔らかいスポンジに住まいの洗剤をスプレーし、
シェード全体をこすって汚れを取ります。
4. 水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
【注意】
金属製のもの、または金属部分のあるものは、
完全に水気を拭き取ります。水気を残して
放置すると、サビなどの発生の原因になります



## 水で洗えない場合（木、竹、籐、布張り、紙張りなど）

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを
取った後、乾いたぞうきんで汚れを拭き取ります。
【アドバイス】
細かい細工があって拭きにくいものは、筆などを使い
ながら、掃除機の隙間ノズルでホコリを吸い取ります。



## リビング　収納家具

### 水を吸わない素材（合板など）

耐水性があり、丈夫なので、比較的おそうじがしやすい素材です。
水拭き・洗剤拭きを嫌う素材は、乾拭きにとどめます。

### ふだんのおそうじ

【用具】

- 化学モップ、または帯電式のハタキ

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
【アドバイス】
水拭き・洗剤拭きを嫌う素材には、帯電式のハタキを使用します。

## 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ　● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤　● ガラス用洗剤

【準備】

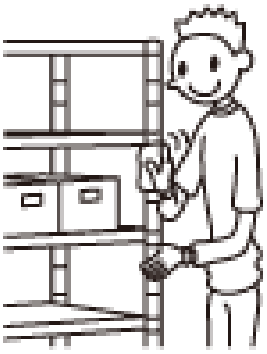
換気
窓を開け、風通しをよくします。

取り出し
中に入っているものを取り出し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜色落ちの有無の確認＞

あらかじめ、表面に少し水をつけ、水を吸い込むかどうかを確認します。
吸い込まない場合には次の手順で。
※水を吸い込む場合、乾拭きでホコリをとる程度にとどめます。



1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。

【アドバイス】

本や小物についたホコリも、取っておきましょう。

2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】

収納家具の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。
6. ガラス戸がある場合は、ガラス面にガラス用洗剤を × 印にスプレーし、水に浸し固く絞ったぞうきんで、洗剤をのばしながら拭いていきます。扉の取っ手部分も拭きます。1 面ずつ行います。

【注意】

取っ手部分は、あまりきつくこすらないよう注意してください。
また研磨剤を使うと、金属の場合、素地が出てくることがありますので、避けてください。

7. 洗剤が 6 ～ 7 分乾きのときに、乾いたぞうきんで洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】
スチール素材にサビがある場合、まず、サビ取り剤を使用します。
それでも取れない場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーを少しつけ、サビの部分を軽くこすり取ります。あまり力を入れないようにし、取れるまで繰り返します。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで汚れや洗剤分を拭き取り、乾いたぞうきんで水気を拭き取っておきます。

## 水を吸う素材（布張りなど）

こまめにホコリを取ることが大切です。汚れた場合は洗剤拭きをしますが製品によっては、色落ちするものがありますので、注意してください。濡らしすぎると、中のクッション材の色が染み出て、表面に移染することがありますので、使用する水分を極力少なくしてください。

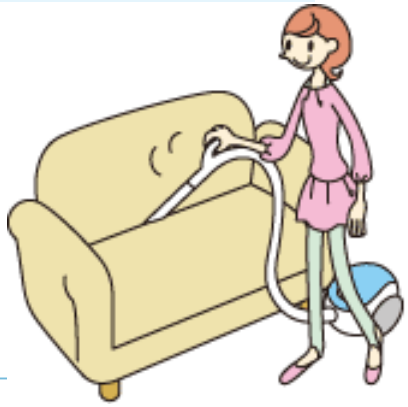
### ふだんのおそうじ

【用具】

● 粘着ローラー　● 掃除機

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。



粘着ローラー、または掃除機で表面のホコリや糸くずなどを取っておきます。
隙間のホコリは掃除機の隙間用ノズルで吸い取ります。

### 念入りおそうじ

【用具】

● ティッシュペーパーと洗濯バサミ　● 洋服ブラシ　● 掃除機　● タオル　● ぞうきん
● バケツ　● カット綿　● ゴム手袋

【薬剤】

● カーペット用洗剤　● ベンジン

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜色落ちの有無の確認＞
あらかじめ、裏面の目立たない布地部分に、カーペット用洗剤をつけたティッシュペーパーを当てて洗濯バサミではさみます。そのまま 10 分間ほどおいてから、ティッシュペーパーに色がついているかどうかを確かめます。色落ちしない場合は次の手順で。※色落ちするものはホコリをとるだけにとどめます。

---

1. 布が起きる方向 ( 色が濃くなる方向 ) に洋服ブラシをかけ、
   繊維を起こし、ホコリを浮き上がらせます。
2. 掃除機の丸口ブラシで、繊維を起こすようにしながら
   ホコリを吸い取り、さらにタテ・ヨコ・ナナメにもかけます。
3. 掃除機の隙間用ノズルで、背もたれと座部のホコリを吸い
   取ります。
4. ファスナーが開くタイプは、開いて、クッション材と布の間に
   乾いたタオルを入れます。
5. シミがある場合は、スプレー式容器でシミのまわりに水をスプレー
   してから、カット綿にベンジンをつけ、たたくようにして拭き取ります。

【注意】
シミ抜きは、布が湿っている間に行います。除光液は中の素材を傷めますので使用しないように。

6. ベンジンが乾いてから、水に浸し固く絞ったぞうきんにカーペット
用洗剤をつけ、タテ・ヨコ・ナナメに拭いていきます。

【アドバイス】
あまり力を入れないようにし、汚れが落ちるまで何回も繰り返す
のがコツです。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
【注意】
ぞうきんは、できるだけ固く絞ってください。水気が多いと、
ソファーの内部の汚れが表面にシミとなって出てくることがあります。

7. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、あまり力を入れないように汚れや洗剤分を拭き取ります。
8. 乾いたぞうきんで、もう一度全体を拭きます。
ファスナーが開くタイプは、何度も乾いたタオルを、中に出し入れして水気を取ります。
9. よく乾燥させた後、布が起きる方向に洋服ブラシをかけ、繊維を整えておきます。
【アドバイス】
色落ちする場合やもっときれいにしたい場合は、
専門業者に依頼されることをおすすめします。

## リビング　ソファー・イス

水を吸わない素材（合成皮革など）

天然の革に比べて水による風合いの変化がありません。汚れが目立つような場合は、
ビニールクロス壁などと同じ要領でおそうじできます。

## ふだんのおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● 掃除機　● ぞうきん　● バケツ

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

化学モップ、または帯電式のハタキで、軽くホコリを取ります。
掃除機の隙間用ノズルで、背もたれと座部の間の
ホコリを吸い取ります。
軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取ります。

## 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ナイロンブラシ　● ぞうきん　● バケツ
● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで、軽くホコリを取ります。
2. ナイロンブラシを水に浸しながら、ソファー、イスの表面を、丸く円を描くようにしてこすって汚れを浮き出します。

【アドバイス】

床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。

3. 水に浸しゆるく絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、まんべんなく均一に汚れを拭き取ります。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

よく乾燥させます。

## リビング　　壁

### 水を吸う素材（布張りなど）

水を吸う素材は、水や洗剤がほとんど使えないため、ホコリを取る日頃のお手入れが大切です。布張り壁は、中に入りこんでしまったホコリをブラッシングしてとることがポイントです。紙張り壁は、外見はビニールクロスとよく似ていますが、水や洗剤はほとんど使えません。しっくいは、多孔質で水を吸いこむため、おそうじが難しい素材です。こすると表面を傷めたり、汚れを広げたりするので注意してください。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

● 帯電式のハタキ　● ブラシ、またはスポンジ　● 脚立（踏み台）

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
2. 布張り壁は乾いたブラシで、紙張り壁やしっくい壁は
   スポンジで、壁面を軽くたたくようにしてホコリを取ります。

【アドバイス】

ブラシやスポンジを使う場合は、決してこすらず、たたくようにします。

## リビング　　壁

### 水を吸わない素材（ビニールクロスなど）

ビニールクロス壁は、耐水性があり、比較的おそうじがしやすい素材ですが、発泡タイプは凹凸があるため、汚れがとれにくいこともあります。合板・木質塗装壁は、力を入れてこするとプリント合板の模様が消えたり、塗装部分がはがれたりすることがあるので、注意が必要です。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● 脚立（踏み台）

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。

# 念入りおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ　● 脚立（踏み台）
● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤、または住まいの強力洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

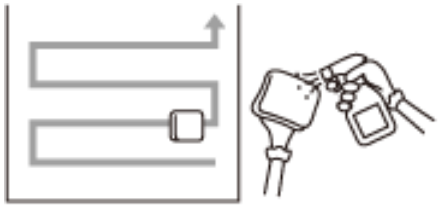
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
2. 水に浸し固くに絞ったぞうきんで、下から上へ拭いていきます。
   ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】
壁の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。

【注意】
均一に拭き、1 ヵ所に力を入れ、ゴシゴシこすりすぎないように。
そこだけ後で色が変わることがあります。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸しゆるく絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、下から上へ拭きます。
   汚れがひどい場合は、住まいの洗剤の代わりに住まいの強力洗剤を使います。



【注意】
洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行います。上から下に行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、注意してください。
また、洗剤により塗装面が変色したり、表面のツヤがなくなることがありますのでご注意ください。

4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

【アドバイス】
スイッチのまわりなど、特に汚れている所や、ビニールクロス壁の凹凸があって汚れがなかなか取れない部分は、水で湿らせたメラミンフォームのスポンジで汚れをこすり取り、水に浸し固く絞ったぞうきんで拭き取ります。

5. よく乾燥させます。

## シミの取り方

シミは、ついてすぐ取るのがポイントです。ついてすぐなら比較的簡単に取れますが、時間が経つにつれて、除去が難しくなります。素材によっては色落ちすることがありますので、あらかじめ目立たない所で変化がないことを確認してから行ってください。

## 念入りおそうじ

### 油性（油溶性）のシミの場合

明らかに油性のシミとわかっている場合の方法です。油性のシミには、クレヨン、油性マジック、灯油、口紅、ファンデーション、ヘアリキッドなどがあります。

【用具】
- スポンジ
- ヘラ
- カット綿
- ぞうきん
- バケツ
- ゴム手袋

【薬剤】
- ベンジン、またはマニキュア除光液

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 乾いたスポンジで、シミのまわりのホコリを取ります。
2. 盛り上がっている部分があれば、ヘラなどを使って、素材を傷つけないように慎重に削り取ります。

【アドバイス】
ヘラは、表面に対して 45 度くらいの角度に当てて行います。
ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。

3. カット綿に、ベンジン、またはマニキュア除光液をつけ、軽くたたくように　拭き取ります。

【注意】
ベンジンやマニキュア除光液でビニールクロスなどが溶ける場合は、使用を中止してください。

4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや溶剤分を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。

### 水性（水溶性）のシミの場合

明らかに水性のシミとわかっている場合の方法です。水性のシミには、ごはん粒、お茶類、果物の汁、血液、化粧水、インクなどがあります。

【用具】

● スポンジ ● ヘラ ● 台所用ラップ ● ブラシ ● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

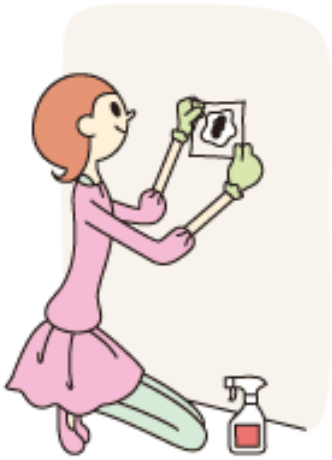
【薬剤】

● 住まいの強力洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。



1. 乾いたスポンジで、シミのまわりのホコリを取ります。
2. 盛り上がっている部分があれば、ヘラなどを使って、素材を傷つけないようにに慎重に削り取ります。

【アドバイス】

ヘラは、表面に対して 45 度くらいの角度に当てて行います。
ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。

3. 台所用ラップを、シミより大きめにカットします。
4. 住まいの強力洗剤をシミの部分にスプレーし、上から手早くラップを　貼りつけます。
5. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後ラップをはがし、もう一度住まいの強力洗剤をスプレーし、ブラシでタテ・ヨコ・ナナメにこすってシミを落とします。

【アドバイス】

洗剤がたれないよう注意して行います。
別の手で、ぞうきんをあてがいながら拭くと、洗剤がたれるのを防げます。

6. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
7. よく乾燥させます。

## 両性または種類不明のシミの場合

両性のシミ、または種類がわからないシミの場合の方法です。
両性のシミには、チョコレート、アイスクリーム、ドレッシング、朱肉などがあります。

【用具】

● スポンジ ● ヘラ ● カット綿 ● ぞうきん ● バケツ ● 台所用ラップ ● ブラシ ● ゴム手袋

【薬剤】

● ベンジン、またはマニキュア除光液 ● 住まいの強力洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 乾いたスポンジで、シミのまわりのホコリを取ります。
2. 盛り上がっている部分があれば、ヘラなどを使って、
素材を傷つけないように慎重に削り取ります。
【アドバイス】
ヘラは、表面に対して 45 度くらいの角度に当てて行います。
ヘラは、古いカードやものさしなどでも代用できます。
3. カット綿に、ベンジン、またはマニキュア除光液をつけ、
軽くたたくように拭き取ります。
【注意】
ベンジンやマニキュア除光液でビニールクロスなどが溶ける場合は、
使用を中止してください。
4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや溶剤分を拭き取ります。
5. まだシミが残っている場合は、台所用ラップを、シミより大きめにカットします。
6. 住まいの強力洗剤をシミの部分にスプレーし、上から手早くラップを貼りつけます。
7. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後ラップをはがし、もう一度住まいの強力洗剤を
スプレーし、ブラシでタテ・ヨコ・ナナメにこすってシミを落とします。
【アドバイス】
洗剤がたれないよう注意して行います。
別の手で、ぞうきんをあてがいながら拭くと、洗剤がたれるのを防げます。
8. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
9. よく乾燥させます。

## どうしても取れないシミの場合

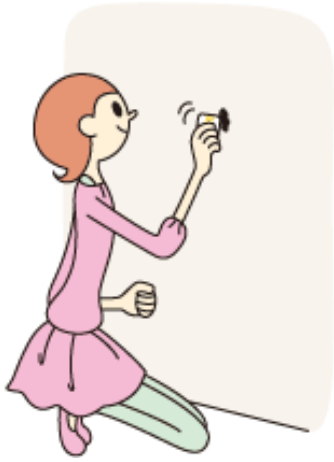
【用具】
● 砂入り消しゴム ● メラミンフォームのスポンジ ● ジーンズ地など ● ぞうきん
● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】
● クリームクレンザー

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。



1. 以下の方法を順番に試し、汚れ落ちのよいものがあれば、それで落とします。
   1）砂入り消しゴムでこする。
   2）水で湿らせたメラミンフォームのスポンジでこする。
   3）水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけてこする。
2. 汚れを落とした後は、その部分だけ汚れが落ちて、周囲に比べて目立って
   しまうことがあります。その場合は、水で湿らせたメラミンフォームの
   スポンジで、きれいになった箇所と周囲の境界をぼかすように軽くこすります。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、壁全体を拭きます。4. よく乾燥させます。

## リビング

### 水を吸う素材（布など）

材質は、アクリルやモヘアなどの布製が大半。汚れは、ホコリや手アカ、場合によってはタバコのヤニなどです。小さな子供のいる家庭では、よだれがついている場合もあります。こまめに汚れを取って、清潔にしておきましょう。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

- 洋服ブラシ、またはヘアーブラシ
- 掃除機
- タオルなど

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 手でさわって、色が濃くなる方向に、洋服ブラシ、またはヘアーブラシなどで毛足を起こし、奥にもぐり込んでいるホコリを浮き上がらせます。

【アドバイス】
床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。

2. 同様に色が濃くなる方向に、毛足を起こすようにしながら掃除機をかけます。

【アドバイス】
直接吸い込むほうが、入り組んだ所のホコリがよく取れるため、掃除機はアタッチメントを外し、ホースでホコリを吸い込みます。

3. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったタオルなどで、汚れを拭き取ります。

### 水を吸わない素材（プラスチックなど）

おもちゃの汚れは、ホコリや手アカ、場合によってはタバコのヤニなどです。小さな子供が口にするおもちゃの場合は、「二度拭きが不要」という洗剤を使った後も、もう一度水で拭いておくほうが安心です。また、水洗いをすると、中に水が入ってしまうものもあります。説明書は必ず読んでおきましょう。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● タオルなど

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで軽くホコリを取ります。
2. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったタオルなどで、汚れを拭き取ります。

## リビング

### シールの取り方

シールの取り方には、ドライヤー、溶剤、水で取る方法があります。
白木などは、シールをはがした後、跡が残らないように木目に沿って拭くのがポイントです。
窓などは、溶剤を使って取ることができますが、台所用ラップなどを活用すると、よりきれいにはがせます。ただし、溶剤を使うと、塗装面の素材によっては脱色、変色、ツヤがなくなることがあります。あらかじめ目立たない所で変化がないことを確認してから行ってください。

### 念入りおそうじ

#### ドライヤーで取る場合

【用具】

● ドライヤー　● ぞうきん　● バケツ

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. ドライヤーを温風にセットし、対象面から 10cm 程度離して、シールを温めます。

【注意】

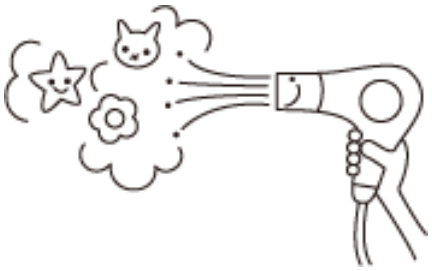
熱で対象面の色が変色するものもありますので、あらかじめ試してから行ってください。

2. 温まってシールがはがれやすくなってきたら、指で端の部分からはがします。
3. シールの粘着剤が残っていたら、乾いた布でこするように拭き取ります。
4. シールを取った部分だけが目立たないように、水に浸し固く絞ったぞうきんで、全面を拭きます。　白木などは、木目に沿って拭いていきます。

## 水で取る場合

【用具】

● カッターナイフ ● ぞうきん ● バケツ ● 台所用ラップ



【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 素材表面を傷つけないように注意して、カッターナイフなどで、シールの表面に細かいキズをつけます。
2. 台所用ラップを、シールより大きめにカットします。
3. シール部分に、ぞうきんなどで水をたっぷりつけて湿らせ、上から、素早くラップを貼りつけます。
5. そのまま 10 ～ 15 分ほど放置した後、ラップをはがし、指で端の部分からはがします。

シールを取った部分だけが目立たないように、水に浸し固く絞ったぞうきんで、全面を拭きます。

【アドバイス】

白木などは、木目に沿って拭いていきます。

## 溶剤で取る場合

【用具】

● カット綿 ● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】

● ベンジン、またはマニキュア除光液

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜色落ちの有無の確認＞

溶剤を使うと、塗装面の素材によっては、脱色、変色、ツヤがなくなることがあります。あらかじめ目立たない所で変化がないことを確認してから行ってください。

1. カット綿にベンジン、またはマニキュア除光液を含ませ、シールのまわりにつけ、端の部分から染み込ませていきます。
2. 充分に染み込んだ部分から少しずつはがし、完全に取れるまで溶剤を染み込ませ、軽くこすり取ります。このとき、溶剤を吸い込まないように気を付けてください。

【アドバイス】
窓などは、この後、水に浸し固く絞ったぞうきんにガラス用洗剤をスプレーし、シール跡を拭き、その後、ガラス全面を拭きます。

3. シールを取った部分だけが目立たないように、溶剤が完全に乾いてから、水に浸し固く絞ったぞうきんで、全面を拭きます。

【アドバイス】
白木などは、木目に沿って拭いていきます。

## リビング

### 落書きの取り方

ガラスなど水を吸わない素材についた落書きは、ついてすぐなら水拭きで落とせるものもありますが、クレヨン、油性マジックなど油性の落書きは、溶剤などで落とします。
ただし、塗装面の素材によっては脱色、変色、ツヤがなくなることがあります。
あらかじめ目立たない所で変化がないことを確認してから行ってください。凹凸のある所に入り込んでいるものは、爪ブラシや歯ブラシなどを使うと効果的です。

### 念入りおそうじ

【用具】
- カット綿
- ブラシ
- ぞうきん
- バケツ
- ゴム手袋

【薬剤】
- ベンジン、またはマニキュア除光液
- ガラス用洗剤

【準備】

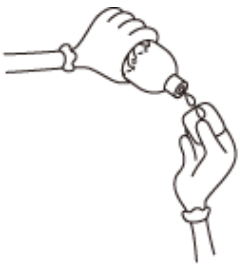
換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

＜色落ちの有無の確認＞
溶剤を使うと、塗装面の素材によっては、脱色、変色、ツヤがなくなることがあります。
あらかじめ目立たない所で変化がないことを確認してから行ってください。

1. カット綿にベンジン、またはマニキュア除光液をつけ、落書きの部分を拭き取ります。
2. 凹凸のある所に入り込んでいるものはブラシで円を描くようにこすります。
3. くもりが残る場合は、その部分にガラス用洗剤をスプレーし、ブラシで円を描くようにこすります。

【注意】
泡がたつガラスクリーナーを使用すると、凹凸のある面に入った洗剤分が取りきれなくなるので、使用しないでください。



4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

case5
# 窓

## 窓

### 透明ガラス

ホコリや汚れを長い間そのままにしておくと、しだいにガラス面に焼きついた状態になり、取れにくくなります。早めのおそうじが大切です。おそうじは、晴れた日より曇った日のほうが、汚れ落ちの状態がよくわかります。

#### ふだんのおそうじ

【用具】

● ぞうきん　● バケツ

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。
　ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

2. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

【アドバイス】
ケバが残りにくく、吸水性のいいクロスで拭くと、きれいに拭き取ることができます。

【注意】
結露をそのままにしていると、カビや水ジミ ( 水でできた白くにごった斑点 ) の原因になります。水ジミはガラスの成分が溶けたもので、通常の洗剤では除去することは不可能です。水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして、水気をしっかり拭き取っておきます。

### 透明ガラス

#### 念入りおそうじ

【用具】

● ぞうきん ● バケツ ● 窓用ワイパー ● ゴム手袋

【薬剤】

● ガラス用洗剤

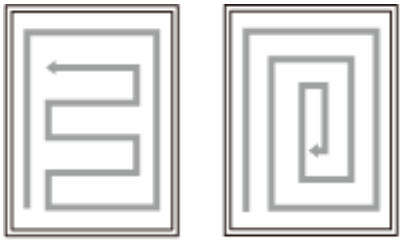
【準備】

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1.ガラス用洗剤を、ガラス全体に×印に、または※印にスプレーします。

【アドバイス】

窓ガラスのおそうじは、必ず1面ずつ行っていきます。
洗剤の標準使用量を確認し、汚れに応じた量を使用しましょう。

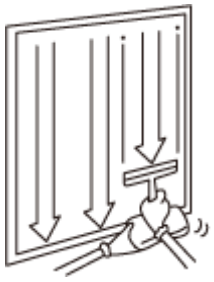


2.水に浸し固く絞ったぞうきんで、まず端を四角く拭き、つぎに
中央に向けて、洗剤をのばしながら拭いていきます。

【アドバイス】

ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

3.洗剤が6～7分乾きの時に、乾いたぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。



【アドバイス】

ケバが残りにくく、吸水性のいいクロスで拭くと、
きれいに拭き取ることができます。

【注意】

洗剤を残しておくと、ニジヤケの原因になり、除去できません。
二度拭きが必要な洗剤かどうか、使用上の注意を確認しておきましょう。

4.窓用ワイパーを使う場合は、ガラス用洗剤をスプレーした後、ガラスから浮かせないよう
しっかり持ち、ブロックを区切りながら、上から下へ、拭き取っていきます。

【アドバイス】

窓用ワイパーが浮いたり、途中で止めたりすると、拭きムラになりますので一気に行うのがコツです。
別の手で、ぞうきんをあてがいながら拭くと、洗剤がたれるのを防げます。

5.窓枠の下にたまった洗剤を、ぞうきんで拭き取ります。

## 窓

### すりガラス・型板ガラス

### ふだんのおそうじ

【用具】

● ぞうきん ● バケツ

1. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、
つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
2. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
【アドバイス】
ケバが残りにくく、吸水性のいいクロスで拭くと、きれいに拭き取ることができます。
【注意】
結露をそのままにしていると、カビや水ジミ ( 水でできた白くにごった斑点 ) の原因になります。水ジミはガラスの成分が溶けたもので、通常の洗剤では除去することは不可能です。
水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして、水気をしっかり拭き取っておきます。

## 念入りおそうじ

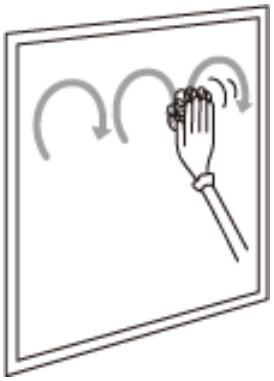
【用具】
● ぞうきん ● バケツ ● タワシ ● ブラシ ● ゴム手袋

【薬剤】
● ガラス用洗剤

【準備】

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. ガラス用洗剤を、ガラス全体に × 印に、または※印にスプレーします。
【注意】
すりガラスの場合は、泡がたつガラスクリーナーを使用すると、洗剤分が取りきれなくなるので、使用しないでください。
【アドバイス】
窓ガラスのおそうじは、必ず 1 面ずつ行っていきます。
洗剤の標準使用量を確認し、汚れに応じた量を使用しましょう。
2. 凹凸のない面は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、まず端を四角く拭き、つぎに中央に向けて、洗剤をのばしながら拭いていきます。その後、洗剤が 6 ～ 7 分乾きの時に、乾いたぞうきんで汚れや洗剤分を拭き取ります。



【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
ケバが残りにくく、吸水性のいいクロスで拭くと、きれいに拭き取ることができます。
【注意】
洗剤を残しておくと、ニジヤケの原因になり、除去できません。
二度拭きが必要な洗剤かどうか、使用上の注意を確認しておきましょう。
3. 凹凸のある面は、タワシで、円を描くようにしながら全面をこすり、汚れを浮かします。
細かい部分には、爪ブラシや歯ブラシなどを使うと効果的です。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

4. 乾いたぞうきんで、全体を拭きます。

【アドバイス】

すりガラスは、洗剤分が残りやすいので、取れにくい場合は、スプレーで水を吹きつけ、ぞうきんで拭いてください。

## 窓

### 白木・素木

ガラスを拭く時に、いっしょにきれいにします。

洗剤拭きする場合は、できるだけ外して、水の流せる場所で行いましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】

- 帯電式のハタキ

1. 帯電式のハタキで、窓枠のすべての面のホコリを、木目に沿って取ります。

【注意】

木が柔らかいのでゴシゴシこすらないようにします。ケバだちの原因になります。

### 念入りおそうじ

#### 外せる場合

【用具】

- ぞうきん
- バケツ
- 柔らかいブラシ
- ゴム手袋

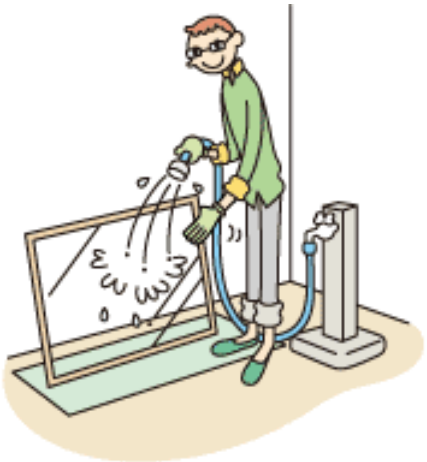
【薬剤】

- 住まいの洗剤
- クエン酸

【準備】

取り外し 移動

取り外し、水を流せる場所に移動し、終ったら戻します。



ゴム手袋

洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。

液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. ホースで全面に水をかけます。

【アドバイス】

キズがつきそうな場合は、床に防水シートを敷きましょう。

2. 水に浸しゆるく絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、木目に沿って拭いていきます。汚れが落ちにくい部分は、柔らかいブラシに住まいの洗剤をスプレーし、木目に沿って軽くこすり取ります。

【注意】
タワシなどの硬いものでこすると、ケバ立ちますからご注意を。
3. 水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取り、なるべく陰干しで、よく乾燥させます。
5. 充分乾燥したら、クエン酸の溶液に浸しゆるく絞ったぞうきんで、木目に沿って拭いていきます。
【注意】
クエン酸を使うのは、洗剤でアルカリ性に傾いている白木を中性にもどす大切な工程です。忘れずに行いましょう。そのままにしておくと変色しやすくなります。クエン酸の溶液は、4 リットル ( バケツ約半分 ) の水に、40g( 盃 2 杯程度 ) のクエン酸を入れて作ります。

6. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、木目に沿って全体を拭きます。
7. よく乾燥させます。

## 白木・素木

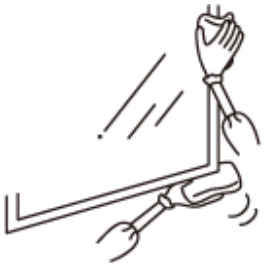
### 外せない場合

【用具】
● 帯電式のハタキ ● ぞうきん ● バケツ ● 柔らかいブラシ ● ゴム手袋

【薬剤】
● 住まいの洗剤 ● クエン酸

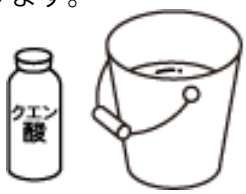
【準備】
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 帯電式のハタキで、窓枠のすべての面のホコリを、
木目に沿って取ります。
【注意】
木が柔らかいのでゴシゴシこすらないようにします。ケバだちの原因になります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、木目に沿って拭きます。
ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
窓の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。



3. 汚れが取れない場合は、水に浸しゆるく絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、木目に沿って拭いていきます。汚れが落ちにくい部分は、柔らかいブラシに住まいの洗剤をスプレーし、木目に沿って軽くこすり取ります。
【アドバイス】
別の手で、ぞうきんをあてがいながら拭くと、水がたれるのを防げます。

【注意】
タワシなどの硬いものでこすると、ケバ立ちますからご注意を。
4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、木目に沿って汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取りよく乾燥させます。
6. 充分乾燥したら、クエン酸の溶液に浸しゆるく絞ったぞうきんで、
木目に沿って拭いていきます。




【注意】
クエン酸を使うのは、洗剤でアルカリ性に傾いている白木を中性にもどす大切な工程です。忘れずに行いましょう。そのままにしておくと変色しやすくなります。
クエン酸の溶液は、4 リットル ( バケツ約半分 ) の水に、40g( 盃 2 杯程度 ) の
クエン酸を入れて作ります。
7. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、木目に沿って全体を拭きます。
8. よく乾燥させます。

## 窓

### アルミサッシ

### ふだんのおそうじ

ガラスを拭く時に、いっしょにきれいにします。ただし結露はサビの原因になりますので、水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして、水気をしっかり拭き取っておくことが大切です。

【用具】
・化学モップ、または帯電式のハタキ
1. 化学モップ、または帯電式のハタキで、軽くホコリを取ります。

【注意】
結露をそのままにしていると、サビの原因になります。水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして、水気をしっかり拭き取っておきます。

### 念入りおそうじ

### アルミサッシ

【用具】
● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ
● サッシブラシ、または割りバシ　● 掃除機　● ゴム手袋

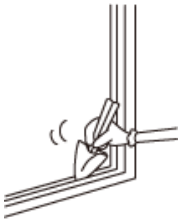
【薬剤】
● 住まいの洗剤

【準備】
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、または帯電式のハタキで、軽くホコリを取ります。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。
ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
窓の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
ゴムパッキンの隅など、汚れが落ちにくい部分は、ブラシを使って、汚れを落とします。
【注意】
アルミは酸にもアルカリにも弱いので、洗剤は弱アルカリ性、または中性のものを選びます。
金属製のものでこすると、表面の塗膜を傷め、サビの原因となります。
4. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

## レール部分

1. レール部分の溝にたまったホコリやゴミを、サッシブラシ、または割りバシの先でつついて、浮かします。
2. 掃除機の隙間用ノズルで、浮かしたホコリやゴミを吸い取ります。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんの上に割りバシの先をあてがい、レールに残っているホコリやゴミを拭き取ります。こびりついた汚れは、割りバシの先で削り落とします。
4. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。
【アドバイス】
ホースで水が流せる場合は、流しながらサッシブラシで汚れを取ります。
流せない場合は、容器に水を入れて洗い流すと簡単です。
5. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。



## サビ汚れの場合

1. 表面に斑点状の汚れがある場合は、水で湿らせたジーンズ地などにクリームクレンザーをつけて、こすります。
【アドバイス】
石けんつきスチールウールや耐水ペーパー (400 番程度 ) を水につけながら、斑点の出ている箇所だけ、アルミの目に沿って軽くこする方法もあります。
【注意】
特にカラーサッシの場合は、強くこするとカラーがはげてしまいますので、あくまでも軽くこするだけにしてください。
2. 耐水ペーパー (800 ～ 1000 番程度 ) でこすり、表面をなめらかにします。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
【アドバイス】
表面の塗膜が取れているサビの場合は、クリアラッカーを薄く塗って保護しておきます。
色つきの塗膜が施されている場合は、全体を塗り替えましょう。

## 窓

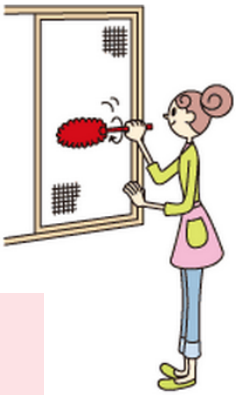
### 網戸

網戸をおそうじする時に、片側から力を入れすぎると網が枠から外れるので注意が必要です。
網の目の部分に汚れがたまるので、あらゆる角度からまんべんなく洗うことがポイントです。
洗剤拭きする場合は、できるだけ外して、水の流せる場所で行うと効率よくおそうじできます。

### ふだんのおそうじ

【用具】

● 化学モップ、または掃除機



化学モップで軽くホコリを取ります。または、掃除機でホコリを吸い取ります。

【アドバイス】

化学モップを網戸と平行にし、少し回転させるように動かすと、網に力がかからずにホコリをよく取ることができます。

### 念入りおそうじ

#### 外せる場合

【用具】

● スポンジ、またはナイロンブラシ ● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

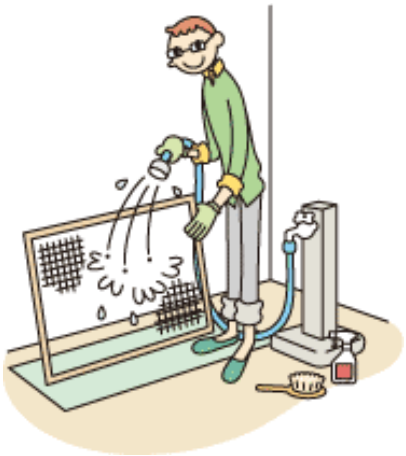
【準備】

取り外し 移動

取り外し、水を流せる場所に移動し、終ったら戻します。

ゴム手袋

洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。



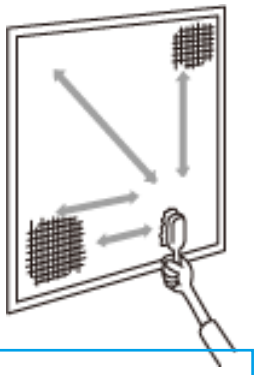
1. ホースなどで、全面に水をかけます。

【アドバイス】

キズがつきそうな場合は、床に防水シートを敷きましょう。

2. 水に浸したスポンジ、またはナイロンブラシに住まいの洗剤をスプレーし、網戸の両面をタテ・ヨコ・ナナメにこすります。
3. そのまま 5 ～ 10 分ほど放置した後、水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
4. 網戸の枠を持ち、軽くポンポンと打ち下して水切りをします。
5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取るか、網戸を立てかけたまま自然乾燥させます。

【アドバイス】
パッキン部分のカビは、必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、
または塩素系漂白剤の原液を、ハケか綿棒などで塗ります。
そのまま 5 ～ 10 分ほど放置した後、しっかり水洗いをします。
※「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と
「酸性タイプのもの」が混ざると、有毒塩素ガスが発生して、
とても危険ですので、同時使用はしないでください。



## 外せない場合

【用具】

- 化学モップ、または掃除機
- ぞうきん、またはスポンジ
- バケツ
- ゴム手袋

【薬剤】

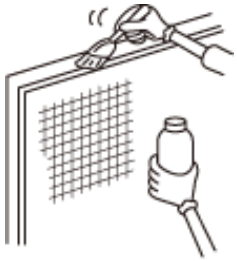
- 住まいの洗剤

【準備】

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

---

1. 化学モップで軽くホコリを取ります。または、掃除機でホコリを吸い取ります。
【アドバイス】
化学モップを網戸と平行にし、少し回転させるように動かすと、網に力がかからずに
ホコリをよく取ることができます。

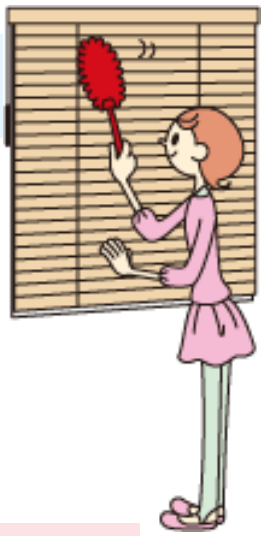


2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。
ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
窓の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
3. 水に浸しゆるく絞った 2 枚のぞうきん、または 2 つのスポンジに住まいの洗剤をスプレーし、網戸の両面をタテ・ヨコ・ナナメにこすります。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。
【アドバイス】
パッキン部分のカビは、必ず手肌を保護してから、カビ取り剤、または塩素系漂白剤の
原液を、ハケか綿棒などで塗ります。
そのまま 5 ～ 10 分ほど放置した後、しっかり水洗いをします。

## 窓

### ブラインド

ブラインドの汚れは、ホコリや場合によってはタバコのヤニ汚れなどが大半です。
手を切りやすいので、必ず手袋をはめて行うことが大切です。また、力を入れすぎると、
ヒモが切れたり、羽の両端が折れたりしますので注意しましょう。



### ふだんのおそうじ

【用具】

- 化学モップ、または帯電式のハタキ

ブラインドを下げ、羽を閉じます。化学モップ、または帯電式の
ハタキで、ブラインドの重なりに沿って軽くホコリを取ります。
羽を反対に倒し、同じようにホコリを取ります。

### 念入りおそうじ

#### 外せる場合

【用具】

- スポンジ
- ぞうきん
- バケツ
- ゴム手袋

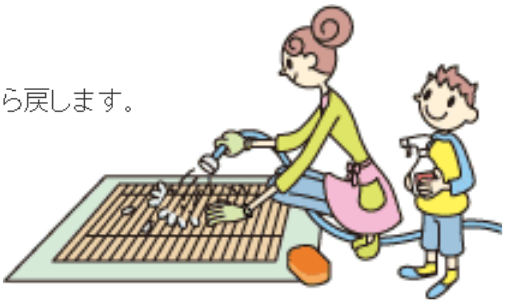
【薬剤】

- 住まいの洗剤

【準備】

取り外し 移動
取り外し、水を流せる場所に移動し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。



1. ホースなどで、ブラインド全体に水をかけます。

【アドバイス】
キズがつきそうな場合は、床に防水シートを敷きましょう。

2. 水に浸したスポンジに住まいの洗剤をスプレーし、羽に沿って洗っていきます。

【注意】
アルミの素材は、酸にもアルカリにも弱いので、洗剤は弱アルカリ性、または中性の
ものを選びます。古くなった塗装は取れやすいので、
事前に確かめてから行ってください。

3. 羽の重なり部分も忘れずに、上の羽を少し持ち上げ 1 枚ずつ隅々まで洗います。
ヒモの部分は、はさむようにして汚れを取ります。
【アドバイス】
ヒモを切らないよう注意しながら、力を入れずにこすりましょう。
4. ブラインドを裏返し、同じように洗っていきます。
5. 水をかけ、汚れや洗剤分を洗い流します。
6. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取り、なるべく陰干しで、よく乾燥させます。
風の強い日は屋外での乾燥は避けてください。
【アドバイス】
洗剤で洗っても取れないヒモの汚れはカビ汚れです。
必ず手肌を保護してから、ブラシにカビ取り剤、または塩素系漂白剤の原液をつけ、
汚れている部分をこすります。
10 分ほど放置した後、しっかり水洗いをします。
※「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」が混
ざると、有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

## 外せない場合

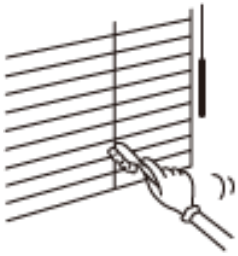
【用具】
● 化学モップ、または帯電式のハタキ　● ぞうきん　● バケツ　● ゴム手袋

【薬剤】
● 住まいの洗剤

【準備】
ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. ブラインドを下げ、羽を閉じます。化学モップ、または帯電式の
ハタキで、ブラインドの重なりに沿って軽くホコリを取ります。
2. 羽を反対に倒し、同じようにホコリを取ります。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、
つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
【アドバイス】
窓の付近を、幅広のマスキングテープや包装紙などで養生しましょう。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
4. 羽の重なり部分も忘れずに、上の羽を少し持ち上げ 1 枚ずつ隅々まで拭きます。
ヒモの部分は、はさむようにして汚れを取ります。
【アドバイス】
両端を拭く時は片手を羽の裏側に当てて、その部分をぞうきんで拭きます。
または、羽をはさんで拭きます。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
ヒモを切らないよう注意しながら、力を入れずにこすりましょう。
【注意】
ヒモが切れやすいので、あまり力を入れないように拭きます。
羽は一度折れると完全には元に戻らないので、
折らないように注意をしてください。

5. 羽を反対に倒し、同じように拭いていきます。
6. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤を
スプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、
汚れや洗剤分を拭き取ります。



【注意】
7. アルミの素材は、酸にもアルカリにも弱いので、洗剤は弱アルカリ性、
または中性のものを選びます。古くなった塗装は取れやすいので、
事前に確かめてから行ってください。
8. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
よく乾燥させます。
【アドバイス】
洗剤で洗っても取れないヒモの汚れはカビ汚れです。必ず手肌を保護してから、
ブラシにカビ取り剤、または塩素系漂白剤の原液をつけ、汚れている部分を
こすります。10 分ほど放置した後、水に浸しゆるく絞ったぞうきんで、ヒモを拭きます。

※「まぜるな危険」と表示されている「塩素系のもの」と「酸性タイプのもの」
が混ざると、有毒塩素ガスが発生して、とても危険ですので、同時使用はしないでください。

## 窓

### すだれ

すだれや、よしずの原料は、主に竹や葦（あし）などの天然素材ですが、
ビニール製のものもあります。天然素材は水気を嫌いますので、あまり
長い間濡らしたままにしないでください。
水拭きや洗剤拭きをする時は、固く絞ったぞうきんで手際よく行いましょう。

### ふだんのおそうじ

【用具】
● ナイロンブラシ ● 掃除機

【準備】
取り外し 移動
取り外し、おそうじする場所に移動し、終ったら戻します。

1. ナイロンブラシで平行に軽くこすり、ホコリを浮き上がらせます。
【アドバイス】
床に包装紙やビニールシートを敷きましょう。
【注意】
網糸の部分は、力を入れすぎないよう注意しましょう。
2. 掃除機の丸口ブラシで、ホコリを吸い取ります。

## 念入りおそうじ

【用具】

● スポンジ、またはナイロンブラシ ● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

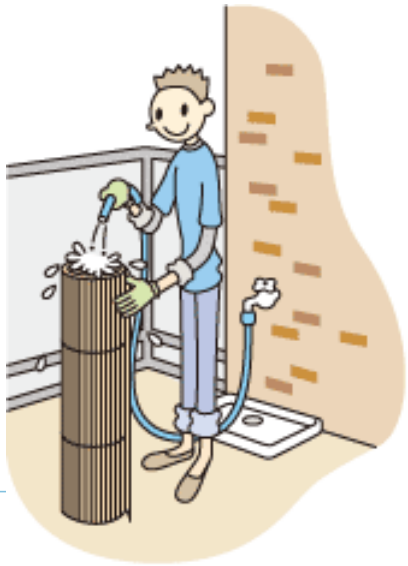
【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

取り外し 移動
取り外し、水を流せる場所に移動し、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

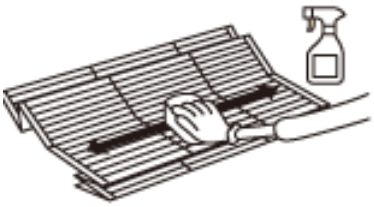


1. すだれを丸めて立て、上からホースなどで水をかけます。

【アドバイス】

キズがつきそうな場合は、床に防水シートを敷きましょう。

2. すだれをアコーディオン式に折りたたみ、水に浸した
スポンジ、またはナイロンブラシに住まいの洗剤を
スプレーし、一面ずつ開きながら平行に軽くこすって
汚れを取ります。

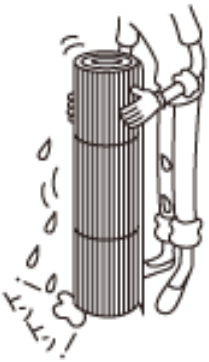


【注意】

網糸の部分は、力を入れすぎないよう注意しましょう。

3. 丸めて立てた状態で水をかけ、汚れや洗剤分を
洗い流します。

4. 丸めて立てたまま、トントンと打ち下ろして
水切りをします。



5. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。

6. 陰干しで、よく乾燥させます。

【アドバイス】

濡れたまま日に当てると、すだれが曲がってしまいます。
必ず陰干しで、ゆっくり乾燥させましょう。

## 窓

### 雨戸

雨戸の内側には綿ボコリ、外側には砂ボコリが雨と混ざって付着しています。
洗剤拭きする場合は、できるだけ外して水の流せる場所で行うと、効率よく
おそうじができます。

## ふだんのおそうじ

【用具】

● 座敷ボウキ、または化学モップ

雨戸の内側には綿ボコリ、外側には砂ボコリが雨と混ざって付着しています。洗剤拭きする場合は、できるだけ外して水の流せる場所で行うと、効率よくおそうじができます。

1. 座敷ボウキで掃くように、雨戸の両面のホコリを取ります。雨戸が濡れていなければ、化学モップも使用できます。

【注意】

結露をそのままにしていると、サビの原因になります。
水滴がついていたら、そのつど乾拭きをして水気を
しっかり拭き取っておきます。

## 念入りおそうじ

### 水を流せる場合

【用具】

● ブラシ ● ぞうきん ● バケツ ● ゴム手袋

【薬剤】

● 住まいの洗剤

【準備】

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 座敷ボウキで掃くように、ホコリを取ります。雨戸が濡れていなければ、化学モップも使用できます。
2. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、拭いていきます。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。

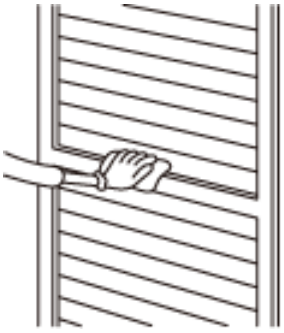
【アドバイス】

雨戸 1 枚を、3 分の 1 に区切っておそうじしていくと、スピーディにできます。
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

3. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、拭きます。その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

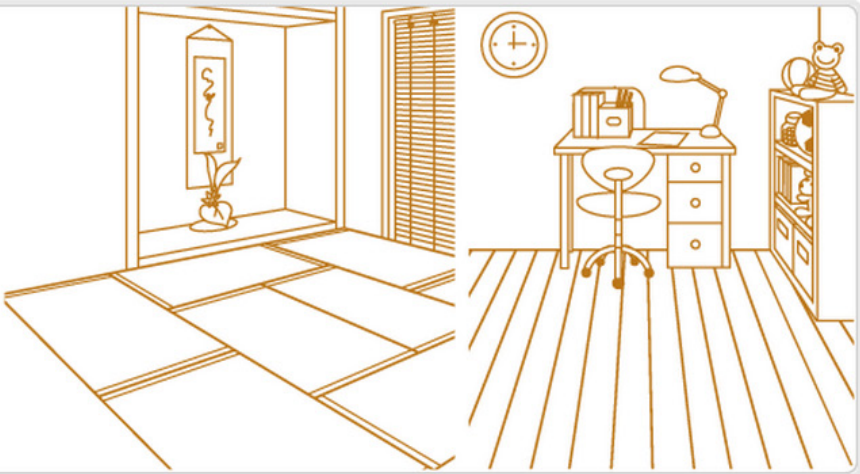
【注意】

洗剤拭きも、拭き取りも「下から上へ」行います。
上から下に行うと、液ダレが取れなくなることがあるので、
注意してください。



4. 乾いたぞうきんで、水気を拭き取ります。
5. よく乾燥させます。

case6
# 床



## フローリング

白木（素木）以外のフローリングは、白木ほど注意は必要としませんが、やはり木でできていますので、水の使用量や使用する洗剤をまちがえると、変色やそりが生じることがあります。
水は少量で手早く行うことがポイントです。

### ふだんのおそうじ

【用具】
- 化学モップ、またはペーパーモップ　● 掃除機
- ぞうきん・バケツ、または除菌モップやウエットタイプのペーパーモップ

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、またはペーパーモップで、ホコリを取ります。
【アドバイス】
化学モップは、ホコリをたてないように軽く使うのがコツです。
窓を開けることで、ホコリが舞い上がるようであれば、先にモップをかけましょう。
2. 掃除機などで、集めたホコリを吸い取ります。
3. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取り、すぐに乾拭きをします。または、除菌モップやウエットタイプのペーパーモップで拭きます。
【注意】
1ヵ所だけをゴシゴシこすりすぎないように。塗料がはげたり、色が変わったりすることがあります。
【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

### 念入りおそうじ

【用具】
- 化学モップ、またはペーパーモップ　● 掃除機
- ぞうきん・バケツ、または除菌モップやウエットタイプのペーパーモップ
- ゴム手袋

【薬剤】
- 住まいの洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

移動
イスやテーブルなどを移動させ、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、またはペーパーモップで、ホコリを取ります。
【アドバイス】
化学モップは、ホコリをたてないように軽く使うのがコツです。
窓を開けることで、ホコリが舞い上がるようであれば、先にモップをかけましょう。
2. 掃除機などで、集めたホコリを吸い取ります。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、後ろに下がるようにして拭いていき、すぐに乾拭きをします。ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
または、除菌モップやウエットタイプのペーパーモップで拭きます。
【注意】
1 ヵ所だけをゴシゴシこすりすぎないように。塗料がはげたり、
色が変わったりすることがあります。
【アドバイス】
ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。
4. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、後ろに下がるようにして拭いていきます。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取り、すぐに乾拭きをします。
【アドバイス】
畳半分ほどのブロックに区切って、1 ブロックごと行い、次のブロックへと移って行くと作業がしやすくなります。
5. よく乾燥させます。

## 床

### 化学床材（クッションフロアなど）

化学床材は、耐水性があり比較的おそうじしやすい素材です。台所の油汚れなども簡単に取れますが、表面にキズが入っているような場合は、水分や洗剤が内部に浸透し、シミの原因になることがあるので注意が必要です。

## ふだんのおそうじ

【用具】

- 化学モップ、またはペーパーモップ
- 掃除機
- ぞうきん・バケツ、または除菌モップやウエットタイプのペーパーモップ

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

1. 化学モップ、またはペーパーモップで、ホコリを取ります。

【アドバイス】

化学モップは、ホコリをたてないように軽く使うのがコツです。
窓を開けることで、ホコリが舞い上がるようであれば、
先にモップをかけましょう。

2. 掃除機などで、集めたホコリを吸い取ります。
3. 軽い汚れがある場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れを拭き取ります。
または、除菌モップやウエットタイプのペーパーモップで拭きます。

【アドバイス】

ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

## 念入りおそうじ

【用具】

- 化学モップ、またはペーパーモップ
- 掃除機
- ぞうきん・バケツ、または除菌モップやウエットタイプのペーパーモップ
- スポンジ、またはブラシ
- ゴム手袋

【薬剤】

- 住まいの洗剤

【準備】

換気
窓を開け、風通しをよくします。

移動
イスやテーブルなどを移動させ、終ったら戻します。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。

1. 化学モップ、またはペーパーモップで、ホコリを取ります。

【アドバイス】

化学モップは、ホコリをたてないように軽く使うのがコツです。
窓を開けることで、ホコリが舞い上がるようであれば、先にモップをかけましょう。

2. 掃除機などで、集めたホコリを吸い取ります。
3. 水に浸し固く絞ったぞうきんで、後ろに下がるようにして拭いていきます。
ぞうきんは、つねにきれいなもの、きれいな面を使うようにします。
または、除菌モップやウエットタイプのペーパーモップで拭きます。

【アドバイス】

ぞうきんは数枚用意し、洗濯機でまとめて脱水しておくと便利です。

4. 汚れが取れない場合は、水に浸し固く絞ったぞうきんに住まいの洗剤をスプレーし、
後ろに下がるようにして拭いていきます。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。
5. 継ぎ目や隅の部分など、汚れが入り込んでいるような箇所は、
水をつけたスポンジ、またはブラシでこすり、汚れを浮かします。
その後、水に浸し固く絞ったぞうきんで、汚れや洗剤分を拭き取ります。

【アドバイス】
ブラシを使うときは、くぼみの中に入っている汚れを浮かすため、円を描くようにして
こするのがコツです。水分が継ぎ目から裏側に入らないように、手早く行ってください。

## 床

### ガムの取り方

フローリングにこびりついてしまったガムは、ヘラなどで削りとるしか手はありません。
しかし、そのまま行っても取れにくく、床を傷めてしまう心配もあります。
あらかじめ氷で固めてから行うのがコツです。

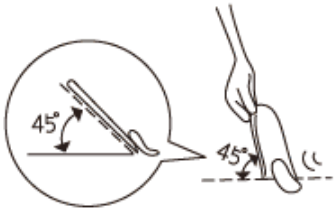
### 念入りおそうじ

【用具】
● 氷 ● ヘラ ● ぞうきん ● ゴム手袋

【薬剤】
● ベンジン、またはマニキュア除光液

【準備】
換気
窓を開け、風通しをよくします。

ゴム手袋
洗剤を使用する場合は、ゴム手袋をはめます。
液がたれないよう端の部分を少し折り返します。




1. ガムを、氷で固めます。
ヘラで、ガムを削り取ります。
【アドバイス】
ヘラは、床面に対して 45 度くらいの角度に当て、キズをつけないよう注意して行います。
フローリング、クッションフロア、P タイルなどは、ほとんどこの段階で取れます。
カーペットやタタミの場合、ヘラで取りきれなかった所は、ぞうきんに、ベンジン、
またはマニキュア除光液をつけて、拭き取ります。
【注意】
ベンジンやマニキュア除光液でビニールクロスなどが溶ける場合は、使用を中止してください。
また素材によっては、色落ちすることがありますので、確認してから行ってください。